

# 泥棒倶楽部解散

作・演出 萬野 展（押田鉄生名義）

## 登場人物

【劇団泥棒倶楽部】

中原一之 脚本演出兼役者。劇団のリーダー。

佐藤兼高<sup>かねたか</sup> 役者。人がよく、内部紛争調整役。脳天気な役者馬鹿。

吉越加代<sup>よしこし</sup> 唯一の女優。兼制作。中原くんに惚れてる。

高野 悟 音響担当。新人。大学生。

村木芳雄 舞台監督兼役者。中堅。実務の中心。

竹村健一郎 劇団のおっかけ手伝い人。自閉的器用貧乏。

高濱昌之<sup>たかはま</sup> 役者。放埒無頼。女で食っている。

北条さん 役者。堅気のサラリーマン。いつもセリフが少ない。

高野 恵 高野悟の妹。田舎の高校生。両親の不仲に兄を追って上京。

松富 馨<sup>かおる</sup> 滅多に姿を見せない飛び道具的役者。実は高級官僚。

【劇中劇】

会長 西武グループの総帥。（中原）

1号（ナナセ） 初期型第七世代人間型コンピュータ。（加代）

2号 改良型第七世代人間型コンピュータ。会長の懐刀。（佐藤）

麴町 守<sup>こうじま</sup> 会社員。ひなげし湯の常連。（村木）

田端敬夫<sup>たかあ</sup> 学生。ひなげし湯の常連。（悟）

明美 ゲイバーのホステス。ひなげし湯の常連。（高濱）

ひなげし玄蔵 ひなげし湯主人。（北条）

椎奈 ひなげし湯の娘。（恵）

博士 西武グループお抱え科学者。（松富）

社長秘書 西武グループ・反会長派の首領。（竹村）

3号 会長型留守番コンピュータ。（中原）

【注記】この脚本は九十二年にどどど企画によって、旧新宿タイニイ・アリスにて上演されたものに、若干の修正をくわえたものである。著作権は萬野 展（押田鉄生）が保持する。当脚本の無断上演を禁ずる。

## SEQ 1 幕を開ける

舞台には誰もいない。

舞台装置のない、ただの素舞台である。  
薄汚れたりノリウム張りの床。むき出しの汚れた劇場の壁。つきっぱなしの蛍光灯。  
全体としてガランとした雰囲気である。  
丸見えになっている楽屋口から、佐藤、悟、中原、加代登場。  
おそすと並ぶ。

悟、一歩前に出て

悟 (そうとう緊張している) …みなさん。本日はご多数ご来場いただき、ありがとうございました。

一同、 「ありがとうございます」と声を揃えて頭を下げる。

悟 …えー、われわれ一同 ……ご覧のような状況です…えー、われわれ一同、ここに、誠心誠意…えー、…真実一路…えー……どうもすみませんでした！

一同、悟のベタな謝り方にちよつと呆気にとられるが、それでも声を揃えて「すみませんでした」と頭を下げる。

悟、疲れ切った様子で列に帰ってくる。  
佐藤、前へ出る。

佐藤 …小道具の佐藤です。本当にもう、あの、こんなことは初めてです…あの、私もさきほど仕事先から帰ってきたばかりです、もう、つきりですね、ええ、出来るものとはかり…ええ、私、ちよつと大事な時に出張に行っておりまして…もう、本当に…。あの、小道具の一部は出てくるんです。これなんかもそうなんです(何に使うのか分からない、ただの曲がった針金を2本、かざしてみせる)…。ただ、まあ、状況がですね、このように、のっぴきならない状況でありまして…。問題はですね、なぜ、こんなことになってしまったのかということなんですよね、ええ、そうですね。その件につきましては、これから、詳しく説明いたしますので。どうも。

佐藤、頭をひとつ下げて、列に戻ってくる。

中原の番であるらしく、みんなは中原を見る。

中原は緊張のあまり泣きそうになっている。

佐藤 (小声で) 中原…！ おまえだぞ。

中原、呼吸が荒い。

佐藤 (小声)…中原！

中原 (絶望的にあたりを見回す)……だめだ…。

中原、胃のあたりを押さえて、ヨロヨロとトイレに。  
トイレから水を流す音が聞こえてくる。

一同 ……。(顔を見合わせて気まずい沈黙)

気を取り直して、加代が進み出る。

加代  
：お見苦しいところをお見せして申し訳ありません。制作助手の吉田です。ダイレクトメールの宛名貼りなどをしております。お客様のみなさまにあらせられましては、この状況をどう受けとめていいのか困惑しておられるのではないかと、心配しております。ひょっとしてこれはとんでもない芝居に来てしまったのではないかと、悪い想像に胸をふくらませておられる方も多いのではないのでしょうか。ご安心下さい！…あ、本当に安心されると困るのですが。…つまり、まあ、とにかく…これ以上悪いことはないですから、本当に。そういう意味ではですね、一種の安心感のようなものが、その、あるのではないかと…

中原、スッキリした顔でハンカチで口のあたりを拭きながら戻ってくる。  
俺に任せるとばかりに加代を列に帰して、客の前に立つ。

中原 照明の権田<sup>しんたわら</sup>原です。どうも失礼しました。普段、われわれスタッフというのは、こうして舞台上からお客様にお目にかかる機会がないものですから、やはり緊張いたします。えー、ご覧の通り、お客様がきてしまっただ道具もない、役者もない。困ったことですが、これが現実であります。現実というものは何よりも現実的でありまして、えー、せめて、今の私たちにできることは、いったいなぜこんなことになってしまったのかを、お客様に理解していただくこと、それ以外にないと、こう思う次第であります。…では、（お辞儀）

中原、列に帰る。  
一回、悟を見る。

悟 …（思わず笑ってしまつ）…では、じゃないだろう。もっと話を進めてこいよ。  
中原 いやいや、まあ。  
悟 まあじゃなくて。だいたい何で一周しちゃっんだよ。話が違つじゃないか。  
中原 ほら、悟くん、お客様がしびれを切らしていらつしやるから。

悟、しびしび出る。

悟 …えー、こうなつてしまった原因をお話します。それは…：SMです。

悟、言い捨ててスタスタ列に戻る。

一同 …：（困惑の空気）

佐藤、何でそついつわけのわからないことを…という顔で悟を見るが、悟は知らない顔である。  
佐藤、出る。

佐藤 えー、まさに、SMとしかいいようのない、抜き差しならない状況なわけで…では、いったい、SMとは何か？

佐藤戻つて加代を見る。  
先ほど入れ替わつたため、順番は加代になっている。

加代 …。  
中原 ホレ。  
佐藤 SMとは。

加代 …(とりあえず出てくる)…えー、エスエムとは……………(後ろを気にする)…サ  
イモンと…マーファンクル…(一同、殴る蹴るのツッコミ)あいてて、痛い、  
ごめんさい。

佐藤 (面白いことを言われて悔しい) 違うんです！ SMとは…

佐藤 なんかギャグを言おうとするが、もともとネタもなく勢いで出てきただけなの  
で、咄嗟になにも浮かばない。  
とりあえずラケットでボールを撃つ真似をする。

佐藤 …スマッシュです。…あ痛、いたい、ホントに痛い。

佐藤、一同の突っ込みのえじきに。

以下「公演中止言い訳エチュード」は、単に面白いことの言い合いと化し、やがて  
スタッフ(のフリをした役者)たちは疲れてそのへんどころがる。

佐藤 もーやめた。やってらんねー。

加代 疲れた…。

中原 これ面白いな、けっこう。

佐藤 そーかー？ 疲れるだけだよ。

中原 それにしても…悟！ オマエなにかんがえてんだよ！

悟 …(首をかしげて考える)

中原 SMはないだろ、SMは。

佐藤 いや、悟イイよ。オマエ音響やめて役者やれよ。

悟 でも自分でなにやってんのか全然記憶ないんですけど…。

佐藤 それは向いてるんだよ、役者に。

加代 ホントですかあ？

佐藤 (小声で) いや本気じゃないんだ。

劇場の入口から村木登場

SEQ2 ラ子守歌を歌うバイ

入ってきた村木は荷物を抱えている。

村木 はよッス。

佐藤 はよース。

中原 うーす。

悟・加代 おはようございまーす。

村木 暑くてたまんねーや今日は…。悟、ホラ、ラジカセ持ってきたぞ。

悟 あ、すいません、お借りします。

村木 それBの方のデッキ、イカれてっからな。

悟 はい。

村木 なに、今日こんだけ？ 北条さんと高濱さんは？（荷物を下ろしながら）

佐藤 北条さんは仕事だよ。

村木 高濱さんは？……女のどこか。

佐藤 だろ。（村木、いったん楽屋口に消える）

悟 え、高濱さんで、彼女いるんですか。

佐藤 彼女っていうか、高濱の場合、いっぱいいるから…

悟 いっぱいって？

佐藤 あいつさ、鍵束持ってんの知らない？ こんなもの。

悟 ああ、はい。

佐藤 あれ全部女のアパートの鍵なんだ。

悟 げ。

加代 最低。

村木 （楽屋口から現れ）なにやってんだよ、さっさと作業してよ。

中原 あだよ村木。

村木 なに。（せかせかとひとりでそのへんを片づけながら）

中原 （村木の運んできた箱に座って）ちょっと思ったんだけどな。

村木 なにを。

中原 いっそのことこのまま道具つくしないで、素舞台のまま客を入れてしまっただ。

それで役者全員スタッフのフリして登場して、どうしてこうなってしまったのか

かっていう言い訳で九十分もたせるんだよ。今ちょっと試してみたんだけど、な

かなか緊張感あっていいぞ。

佐藤 あり過ぎなんだよ。

村木 中原さん…。あなたはまた自分がホン書きたくないばかりにそういうクダラナ

イこと思いつくんだから。

中原 あれ。

村木 あれじゃないよ。もうタイトルだつて舞台設定だつて決まってるんだよ。今更なに

いってんだよ。

悟 え、タイトルだつて決まってるんですか？

村木 ビラ見てないのかオマエは！ 『泥棒倶楽部解散』だろ！

佐藤 舞台設定ってなんだっけ？

村木 (溜息) ……下町の！ 取り壊し間近の銭湯！ そこに集まる半端なやつら。現れる身もと不明の記憶喪失少女！ 謎の老人！ 団結と裏切り！ 渦巻く恋と陰謀！ ……詳しいことは中原に聞け。

加代 ……恋って渦巻く？

佐藤 わかったようなわからんような…

中原 まあ、だいたいそんなもんだ。俺もそのくらいしかわからん。

一同、中原の無責任発言にふーんという顔をしている。

村木 例によってそれだけで走り出しちゃったんだからもうやるしかないでしょ。ホラ、さっさと荷物運んでよ！

一同、へーだのホーだの返事だけはする。

やおら軍手をはめる者、埃よけのマスクをする者。

しかし村木が背を向けたとたん、ゴロゴロとマグロのように転がってだらける。新人の悟だけは立って仕事をしようとする。

村木 悟、オマエさっさとスピーカー吊っちゃいな。

悟 ハイ。

村木 位置決めたんだろ？

悟 ええと、このへんに…

村木 ……(振り返り他の人々が全然動かないのを見て、パンパンと手を叩く) ホラ！ さっさと動いた！ いつまで休んでんの！

一同ついに渋々立ち上がり、作業にとりかかる。

中原 よっしゃ、やるかア。

佐藤 悟！ 景気つけになんか音だせよ。

悟 ハイ。

中原 ノリのいいやつな。

悟 ハイ。

悟、カセットデッキにテープを入れ、プレイボタンを押す。

シンミリとしたイントロ。

ラジカセから『あざみ嬢のララバイ』が流れ始める。

一同、石のようになっていているなか、悟がスピーカーをひょこひょこ運んでいる。

佐藤 ……オイ。…オイ！

悟 (立ち止まって) ハ？

村木 ……なんだコレ？

悟 あ、中島みゆきです。

村木 わかってるよ。

悟 あざみ嬢のララバイ。

村木 知ってるよ！

佐藤 オマエな、景気つけろって言うてんの。中島みゆきはないだろ。

悟 ……これ、ダメですか？

一同 ……。

村木 (決然と) いいよ。(なかばヤケクソ) これでやるつ、これで。な。いいじゃないか。みんなも音響さんの趣味を理解して、頑張ってやっていこう。よし！やるぞ！

一同 …(弱々しく) おー。

作業が続く。

佐藤 (中原に小声で) どーも辛気臭いなあ。

村木 …言っちゃいかん、悟が泣くぞ。

中島みゆきにのせて、薄汚れた小屋の壁が幕や吊り物で隠されてゆく。

あつと言つ間に、「小屋」は「舞台」へと変貌する。

この間、一同は適当に雑談を交え、やがて誰かの鼻歌が伝染し、最後には『あざみ嬢』の大合唱となる。

村木 中原さん。

中原 ん？

村木 ちよつと話あんだけど、いいかな。佐藤さんも。

中原 なんだよ。

村木 ここじゃちよつと。

中原 佐藤！(手で、外へ、の合図)

佐藤 なに。

中原 村木がなんか話あんだって。

佐藤 どこいく？

中原 んー…アトムいくか。

佐藤 おい、アトムはよそうよ、俺アトムで朝飯喰ったんだよ。

中原 そうか、じゃあどこいくよ。

佐藤 ポンパドールいこう。(歩き出す)

村木 え、おれポンパで昼飯喰ったんだよ。…ちよつと、佐藤さん！

村木、佐藤を追って退場

中原 ちよつと出てくるから後頼むぞ。

加代・悟 ハイ。

中原 このへん、おかしなの多いから気をつけろよ。

加代・悟 ハイ。

中原、追って退場。

## SEQ3 役をもらう

中島みゆきの暗い曲『うらみです』が流れるなか、黙々と作業を続ける加代と悟。黒メガネにコートのあるからに怪しい男（竹村）、劇場のドアから登場。竹村は舞台をじっくり眺めまわし、何かそのへんのものに腰を下ろす。

悟 （加代に）…誰？

加代 さあ…？

悟 …。

加代 聞いてみなさいよ。

悟 …え。

悟、後ろからおそるおそる近づく。

竹村、静かにすすり泣きを始める。

悟、立ち止まり、まわれ右してかえってくる。

加代 なにやってんの。

悟 ちょっと近寄りがたくって…

加代 男でしょ！

悟 ううん違う。

加代 じゃなによ。

悟 去年、去勢しちゃった。

加代 行きなさいよ。

悟 どうぞ。…お願い。

悟、加代を前に押し出す。

加代、おそるおそる、泣いている竹村に近寄る。

加代 あのー、もしもし。

竹村 …。

加代 どちらさまですか？

竹村 吉越加代さんですね。

加代 ハイ、そうですけど…

竹村 そちらのお若い方は高野悟さん。

加代・悟 …（顔を見合わせる）

加代 …どうして知ってるんですか。あの、あなたは…

竹村 何でも知っています、何でも。この劇団のことは。知っていたつもりでした。それなのに！…僕は馬鹿だ。なぜ、どうして、ひどすぎるじゃありませんか！ なにもこんな形で！…こんなにも突然に！…ああ、私一人を残して汽車は出る。飛行機は離陸し船は岸を離れ、タクシーはこれ見よがしに満車のランプを灯して夜の第三京浜をひた走る。私ひとりを残して…！

加代、悟ひたすら呆然としている。

竹村、泣きながら巻き尺を取り出す。

竹村 …そっち持って。

加代、巻き尺の端を押さえる。竹村ソテまで走る。



竹村 2メートル50センチメートル！ この小屋のセンターからソデまでの長さは変  
わらないのに…もう…

竹村、突っ伏して泣く。

加代 ああ、ちよっと…

悟 水持ってきましようか？

加代、悟、口々に慰めるが、駄目。  
そこへ村木が戻ってくる。

加代 あ、村木さん、大変。

村木 どうした。なんか空気がよどんでぞ。

悟、状況を説明する。

村木 …ちよっと下がってる。俺が見るから。

村木、のぞき込む。竹村顔を上げる。

村木 …(きびすを返してスタスタ逃げる)

竹村 村木さん！

村木 ハイ。(戻ってくる)冗談だよ。タケ、久しぶりだな、元気が。え？

加代 知ってるんですか？

村木 あー、ホラ、いつか話したろ？ お手伝いの竹村くん。いつも公演のたびに手  
伝ってもらってる…

加代 ああ…。

村木 タケ、どうしたんだよオマエ、泣いてちゃわかんねえよ。オイ、とにかく座れ  
よ、ホラ。

竹村、泣きながら座る。

村木 なんだ。言ってみろ、どうした。

竹村 …うそつき。

村木 ああ？

竹村 …なんで…僕に黙って…僕に…黙って…！ (泣く)

村木 あーッ、待て、泣くなッ！ オイ、タケ、ちよっと、泣くなっていつてんだろ。  
悟ッ！ 曲とめろ！ まずこの曲をとめろ！

悟 あわててラジカセを止める。中島みゆきの超クライ歌がやみ、沈黙が訪れる。

村木 …(荒い息)…涙ふけ、涙！ (ハンカチを渡す)…おまえなア、泣いてちゃわか  
ないだろーが…なんだ、なにがあった？ ん？

竹村 …あの…あ…解…(しゃくりあげる)

村木 おちつけ、ホラ、オマエ…深呼吸。深呼吸！

竹村、大きく息を吸い込む。

村木 …。

竹村 …。

村木 吐け、吐け。  
 竹村 …(ぶはーと息を吐く)  
 村木 落ち着いたか？  
 竹村 (うなづく)  
 村木 話してみる。  
 竹村 解散…するんでしょ…。  
 村木 あ？  
 竹村 解散…  
 村木 なにが？  
 竹村 ここ…  
 村木 ここって？  
 竹村 こ、こ  
 村木 ウチ？ ウチが？ 解散？ するの？ (悟に)する？ (加代に) 解散すんのか  
 竹村 ウチは？ しないよなア。タケ、誰もそんなこと言っていないぞ。  
 竹村 そうやって僕をだまそうとしてる。  
 村木 してないよ！ なんで、だいたいオマエの話どこで聞いた？  
 竹村 まちぢゅう。  
 村木 はい？  
 竹村 街中に、泥棒倶楽部、解散、解散、解散！ かーいさーん！  
 村木 ……。あ…。あーあーはいはいはい。わかったわかったわかった。オ  
 マエ、ピラ見たんだ。バカ、おまえ、勘違いしてんだよ、あれはピラだよ、ピ  
 ラ。タイトルなんだよ、タケ。『泥棒倶楽部解散』というタイトルなんだ、今度  
 の芝居は。  
 竹村 ぴあにもアポにも出てる…  
 村木 そりゃタイトルだから、そりゃ出てるよ。  
 竹村 解散公演…  
 村木 イヤ、ちがうちがう、ちがうんだタケ、聞け！ いいか。オレ達は確かに泥棒倶  
 楽部だけど、つまり泥棒倶楽部という劇団が、たまたま『泥棒倶楽部解散』とい  
 うタイトルの芝居をやるんだ、それだけなんだ、わかるか。  
 竹村 …解散公演。  
 村木 じゃないの！ 解散公演じゃなくてタダの公演！  
 竹村 ……タダで見れる…  
 村木 バカ。  
 村木 竹村の頭を叩く。照れたように笑う竹村。  
 竹村 ……いいか、タケ。オマエがさ、屋久島から出てきて芝居やりたくて、この劇団の  
 手伝いはじめて何年になるよ。  
 竹村 五年。  
 村木 五年だよ、五年。長いよなア…。オレはさ、ここだけの話だよ。中原さんや佐藤  
 さんはさ、役者なんだよ、根っからの。ライト浴びれりゃ満足なんだよ。でも  
 な、オレはさ、スタッフとしては、タケ、オマエを一番信頼してるんだぞ。  
 竹村 …。

村木 なア、タケ。そのおまえに黙って解散なんかするわけないだろ。おまえがいなきゃここの舞台はできないんだから。タケ、おまえが必要なんだよ。

悟、竹村と村木のやりとりを見ながら、ラジカセで曲をフェードインさせる。  
曲は相変わらず中島みゆき。『時代』。

竹村 ボクが…必要…

村木 そうだよ、タケ。おまえが必要なんだよ。また一緒にやっていこうよ。

竹村 一緒にやれるんですね。

村木 そうだよ、またやろうぜ、一緒に。

竹村 一緒に。

村木 一緒にがんばろう！ な、やっていこう！

竹村 ハイ！

悟、おもむろにラジカセのツマミをひねって曲を盛り上げる。

村木 オマエが頼りだよ！

竹村 ハイ！

村木 頼むぞタケ！

竹村 ハイ！

村木 悟ウ！ それでいーんだ！

猛然と働き出す竹村。

村木、疲れ切っている。

村木、悟に音量を下げさせ、加代とふたり呼び寄せる。

村木 …あのな、今中原さん達とも話したんだけど、実はアテにした客演の役者がボシヤって役が余っちゃまったんだよ。まあ、役うちゅうほど中身も決まっていんだけど、まあ、とにかく役者が足りないんだ。でな、中原さん、おまえのこと使いたいつて言ってんだよ。

悟 (ふむふむと聞いているが急に自分のことだと気づいて) えッ、おれですか。

加代 本気で悟使うの？ でも音響どうすんですか？

村木 プランは切ってもらう。オペは別口を探すことになると思うよ。

悟 だけとおれでいいんですか。全然経験ないし、さっきだってちょっとやらしてもらったけど、自分でなにしてんのかさっぱり記憶ないし…

村木 まあおれもどうかとは思っただけど…とにかくこれからポンパドール行って中原さんの話きいてくれ。自信なかったらちゃんと断ったほうがいいぞ。

悟 わかりました。

村木 それとな、加代、オマエも一緒にいけ。なんか、おまえとカラミのある役らしいんだ。

加代 あたしと悟がどう絡むの。

村木 よくわかんないけどなんか恋に落ちるとかそんなんじゃないか。

加代 うわ。

村木 なんだ、うわって。いいからいけ。

加代 はあい。

加代退場。悟ひとりで照れている。

村木 … オマエはなにしてんの。

悟 は。

村木 はじゃないよ。… なにニコニコしてんだ。いけよ。

悟 はい。がんばります。

村木 なにを！ なに言ってるんだ、いいから行ってこい！

悟、退場

村木 … (やれやれの様子) タケ！ あれ、タケ？ (竹村、幕の後ろから顔を出す) お

れもちよっと出てくるから、あと頼んだぞ。… あー、疲れた…。

村木退場 竹村、幕の後ろに消える。

## SEQ4 計画を進める

会長の部屋。

会長とその手下2号、登場

会長 2号!...2号!...あいつめ、どこへいった。 : 2号! まったく肝心なときに限ってあいつはいない。

2号 RRRRRRRR...

会長 ...何だ、この音は...

会長、ちよつと考えて電話をとるマネをしてみる。

2号 RRRがちゃ。

会長 おわ。電話だったのか...

2号 会長。2号です。

会長 2号! なにをしている。呼ばれたらさっさと来んか。

2号 申し訳ありません、会長。

会長 (後ろを向くと2号と目が合う)(いるじゃないかそこに! わけのわからんマネをするな!

2号 はあッ!

2号前転し、忍者のようにポーズをつけて座る。

会長 なんだオマエは...

2号 お呼びですか、会長。

会長 お呼びだとも。

2号 はて、ご用の趣きはいかに。

会長 いかによくないだろ、計画はどうなっている。

2号 はて、計画とは。

会長 計画は計画だよ。

2号 (考えている)(...)(ひらめく) 大人計画。

会長 ...殺すよ、オマエ。

2号 恐れいりました。

会長 とぼけてる場合じゃないだろ。今回の用地買収計画が不成功に終わった場合、私が進めている、みなとヨコハマそよ風文化圏構想は重大な方向転換を強いられることになる。そうなればグループ内で手ぐすね引いてる反会長派どもが待つてましたとはかりにこの俺を会長の椅子から引きずり降ろそうとするだろう。失敗は許されんのだ。

2号 そうでした。

会長 前の会長が大相撲八百長スキャンダルで解任されたドサクサに会長に就任してから4年のあいだ、俺にはこれといった業績がなかったからなあ。

2号 ちよつと待つてください。その大相撲八百長人種差別発言スキャンダルっていうの僕知りませんよ。

会長 そこまで言つてないぞ。

2号 僕は思っんですけどね。横綱っていつのはもっとこつ神聖不可侵っていうか、侵すべからざる存在っていうか…

会長 何の話をしてるんだ、おまえは。

2号 だからもう横綱っていつのは、ものごつつ強くなきゃいかんのですよ。人にあって人にあらずっていつか…

会長 そりゃそうだ。

2号 たとえばですね、考えたんですけどね、横綱の取り組みはもう非公開にするんです。国技館じゃなくなてなんか誰も知らない場所で、地下の秘密リングかなんか作ってですね…

会長 おいリングじゃないだろ、土俵だろ。

2号 そう、それで誰も見てない地下土俵で力士と行司だけでオゴソカに雌雄を決するんです。

会長 …いいかもしれない。

2号 でしょ？ それくらい神秘的なもんじゃなきゃ、それでもう、勝敗なんか国民ごときには教えないんです。

会長 勝敗わからないのか。

2号 だめだめ。勝敗は相撲協会の地下深くに眠る大金庫にですね…

会長 また地下か。地下スキだな、おまえ。

2号 はいッ。

会長 張り切るな！ だけど決まり手ぐらい知りたいぞ。

2号 会長、甘いですよ。秘密のベールにつつんでこそ、横綱のアリガタミがあるんです。隠すんです。徹底的に隠すんです。

会長 すると行司なんかも。

2号 そう、行司はもうそれ専用ですね、もう勝敗とかどっちがマエミツを取ったとか口外できないように五歳の娘を人質にとつてから、もう念には念を入れて目もつぶして舌も抜いてもう…

会長 おい！ 目えつぶしてどつやって行司するんだ。だいたい何の話だ。なんでこんな話になつたんだよ。

2号 …。

会長 なにが5歳の娘だ、おまえは。違つたよ。…どこまで話が進んだかわからなくなつてしまったじゃないか。

2号 みなとヨコハマそよ風文化圏構想です。

会長 そおだ！ とにかくこの事業は、俺が西武グループの中興の祖として不動の地位を固めるための起死回生の計画なんだ。首都圏と港町ヨコハマを一本の線で結び、その沿線上に新しい文化圏を作り出す。その文化の担い手を、我が西武グループが一手に引き受けるんだ。

2号 そのためのカナメとなるのが…

会長 そう。横浜と高田馬場を結び、横馬場線だ。

2号 その名前がよくないような気がします。

会長 うるさい！ 名前なんかどうにでもなる！ 駅名だって全部東横線と一緒にしてアタマに「新」とか「本」とかくつつけときゃいいんだ。

2号 なるほど。

会長 高田馬場からいったん高田寺側に逃げ、そして南に下る。下北沢、自由が丘、田園調布をかすめて一気に鶴見、生麦まで南下する。海と出会う。そこから海沿いに異国情緒漂うエキゾチックな駅を配し、潮風とともに横浜に雪崩れ込む。それが俺の横馬場線だ。

2号 会長！（感動している）

会長 感動している暇はない！ いいか、そこまできてるんだ。横浜側からひとつひとつとつづつ、極秘のうちに用地買収を進め、俺の横馬場線はもうここまできてるんだぞ。

2号 はい。

会長 …ひなげし湯だ。いいか！ さつさとあの小汚い大衆浴場を買収しろ。それですべての準備が整ったぞ。これまでのような生ぬるい手ではなく実力を行使してかまわん。

2号 ですが会長、実力行使するのはどうも…

会長 口応えは無用だ！

2号 はッ！ おつりゃあ！（前転して忍者座り）

会長 その座りかたはやめろ！

2号 …（立つ）

会長 いいか2号。オマエは俺が海外事業部時代に開発した人間型コンピュータだ。見かけは人間でも中身は機械だ。無限の動力と人間の数千倍の記憶能力を持つ、鉄と、シリコンと、竹ヒゴとタコ糸のかたまりだ。

2号 そんな…。

会長 人間らしい感情などない。命令には絶対服従のマシンだ。極秘裏に計画を進めるのにはもってこいのパートナーなんだ、いいか。…時間がない。悠長なことはしておれん。反会長派がこの計画を知ったら問答無用でつぶしにかかるだろう。その前にひなげし湯を押さえる。そして買収した土地すべての名義を西武グループに書き換え、上に圧力をかけて運輸省の認可をとる。

2号 ちよ、ちよっと待って下さい…（忘れないように手に書く）うんゆしよ……にか…と…

会長 …いいか？…手段を選ばな。ひなげし湯の家族構成、出入りの客を調べる。倒産に追い込むんだ。

2号 ……倒産？…銭湯が倒産って、なんか違いますか。

会長 じゃあ、なんだ。廃止？

2号 廃止…廃お湯…

会長 廃銭湯…廃湯…

2号 ハイトウ…ハイトウでしょう！

会長 ハイトウ！…ハイトウだ！

抱き合って喜びあつふたり。

会長 何でもいい！ つぶせ！ つぶすんだ！

2号 はあッ！（前転して忍者座り）

会長 その座りかたはやめろと言ってるんだ！

2号 はッ！

会長 わかったらかかれ。

2号 はッ!

2号退場。  
会長、電話をとりあげる。

会長 私だ…。1号の様子はどうか。…そうか。で、例のものは…。よし。ではすぐ行く。

会長、電話を切って退場。



## SEQ5 湯に入る

もうもうと立ちこめる湯気。  
 声にはわずかにエコーがかかる。  
 舞台上には三枚の衝立が並ぶ。  
 衝立の後ろには、銭湯の客であるサラリーマン（麴町）、学生（田端）、ホステス（明  
 美）がいる。  
 もちろん裸である。

麴町 （衝立から顔だけ出して）あああああ。やっぱりなんちゅうか、疲れがとれるよ  
 ねえ、銭湯は。  
 田端 （顔出し。メガネをかけている）…そうですねえ。（ノートを見ている）  
 麴町 おいおい、風呂んなかで勉強すんなよあんだ。  
 田端 試験が近いんですよ。  
 麴町 大変だねえ。おれにもあったなあ、学問に燃えた日々…。  
 明美 （顔出し。サングラスをかけている）あんだ高卒じゃないのよ。  
 麴町 なに言ってるんだよ、おれは大学出てんだよ。  
 明美 あらそつなの。どこ？  
 麴町 どこって、そりゃあ…  
 田端 どこですか？  
 麴町 …（口の中でぼそぼそ）  
 明美 え？ なあに？  
 麴町 奥多摩産業金融調整大学だ！  
 明美 へええええ。聞いたこともないわ。  
 麴町 略して奥さん金チヨウダイって言って、有名だったんだぞ！  
 明美 なんなのその冗談みたいな大学。学生さん知ってる？ 知らないわよねえ。  
 田端 知ってます。  
 麴町・明美 えっ。  
 田端 僕、実はその姉妹校に行ってるんです。  
 麴町 すると君…  
 田端 奥多摩産業体育変遷大学です。  
 麴町 君、奥さんタイヘンダイかあ！ いやあ奇遇だなあ。  
 明美 なんなのよあんだたち…。体育…変遷？ なに教えてんの、そこで。  
 麴町・田端 え。  
 明美 もういいわ、聞かない。…学生さんもね、気をつけないとこのヒトみたいに、三  
 十過ぎても風呂なしアパートでうだつの上がらない末路が待ってるわよ。  
 麴町 うるせえなあ、オカマに言われたくねえよ！  
 明美 あらちよつと、ずいぶんじゃないの。あんだねえ、少しは齒に衣着せなさいよ。  
 麴町 （立ち上がる）へん、悔しかったらなあ、女湯入ってみな、女湯。  
 明美 （立ち上がる）あんだ、ちよつと、やる気？  
 麴町 …スミマセン。（座る）  
 明美 …意気地なし。

銭湯の主人が、洗い場の掃除に現れる。  
 その顔には絆創膏がべたべたと貼ってある。

明美 …ちよつとちよつと、コーちゃん。  
 鞠町 コーちゃんじゃないだろ、おれには鞠町って名前があるんだよ！  
 明美 コーちゃんじゃあ、おれにさ。あのね、あたしちよつと小耳に挟んだんだけどさあ。…ここ、つぶれるらしいわよ。

鞠町 ここ？  
 明美 ここ。  
 鞠町 ここって、ここ？  
 明美 じ、じ。

明美、湯の下に手を伸ばす。

鞠町 あ…。やめれいッ！  
 明美 あらゴメンナサイ、つい。  
 鞠町 ついじゃないよ、勘弁してよ。  
 明美 そこじゃなくてね、ここ。ひなげし湯。  
 鞠町 ほんとかよ。

明美 お店によくくる不動産関係のお客さんに聞いたんだけどさあ…ご主人、見てご覧なさいよ。

鞠町 …ありや、傷だらけだね。

明美 あれ、地上げ屋にやられてんのよ。

鞠町 うわ、マジかよ。おれ困るよ、このへん他に銭湯ないし…

明美 でね、でね、続きがあんのよ。その、この土地を欲しがってるっていうのが、アレらしいわよ。

鞠町 アレ？

明美 ア、レ。…なに逃げてんのよ。

鞠町 アレとは？

明美 西武よ。西武グループ。

鞠町 なんだ、西武っていったらおれの勤めてる会社じゃないか。

明美 なにいつてんの。あんたんとこは子会社の子会社のそのまた子子子会社の下請けじゃないのよ。

鞠町 そんな言い方ないだろ…。

明美 あたし齒に衣着せない質クチなの。

鞠町 ああネコに見えないよ。

明美 洒落たこと言っんじゃないわよ。

鞠町 しかし困るよ、ここつぶれたら死活問題だよ。…学生さんだってそうだろ。

田端 ぼく自宅に風呂ありますから。

鞠町 だろ。…なに！

田端 …。

鞠町 じゃ、なにしに銭湯きてんだ、あんた。

田端 …。(本を見る)

鞠町 勉強しにきてんのか。

田端 …。(頷く)

鞠町 おのれ…。(明美に) あんたは困るよな。

明美 あたしお店にお風呂あるから。

鞠町 なんでおれのアパートに風呂がなくて、オカマバーに風呂があんだ！  
明美 バーじゃないわよ、高級クラブよ。あんなんかの給料じゃ敷居またげないくら  
い高級なのよ、従業員専用のお風呂くらいあんのよ！

鞠町 じゃあそこでオカマ同士仲良く背中流しあってりゃいいじゃねえか！なんで銭  
湯くんのおまえは！

明美 言わせないでよ。あんただってさ、女湯覗いてみたいって思うでしょ。

鞠町 ……男の裸、見に来てんのか…。

明美 堂々と見られるって、特権よね。

鞠町 ……おれだけか…。おれだけがこのひなげし湯の将来を憂う人間なのか…。

明美 それもごく近い将来だよ、きつと。

鞠町 ……畜生。バカヤロー！（しぶきを上げて暴れる）

明美 ちよつと！ 暴れないでよ！ 子供じゃないんだから！

洗い場に、着衣の若い女性が現れる。

手には二本の曲がった針金を持っている。

田端 あ…。

明美 あらま、大胆。

鞠町 なんだ。…女だーッ！

明美 ちよつとお嬢ちゃん、女湯はあつちよ。

鞠町 そうだぞ。こつちは男とオカマしか入れないんだぞ！

明美 あんた一言多いのよ！

少女 ……水だ。

鞠町 へ？

少女、ザブザブと湯船に入ってくる。

三人は大騒ぎ。

田端 わあつ。

明美 ちよつとちよつと！

鞠町 なぜ入るかなあ…。

少女 ……確かに水だ…。

明美 それお湯よ。

鞠町 オマエはどうした。

田端 は、鼻血が…

鞠町 なんだそりゃあ…なんでだーッ！

明美 ちよつと汚いわね、垂らさないでよ！

少女の体から力が抜け、湯船に沈む。

鞠町 おいおいおい、沈んじまつたぞ！

明美 助けなさい助けなさい。

鞠町 学生！ 手貸せ！

鞠町、田端、沈んだ少女を助けようとする。

鞠町 オマエも手伝え！

明美 あたし力仕事ダメなの。早く助けないと死ぬわよ、それ。

鞠町 だから手伝えっていつてんだろ！  
明美 ちよつとご主人さあん。たいへんよ！。

ようやく少女を引っ張り上げる鞠町と田端。

鞠町 とりあえず脱衣所に運ぼう。

明美 頑張つてね、しっかりねエ。

鞠町 だから手伝えって言つてんだ！

騒ぎながら三人は少女を抱えて退場。

## SEQ 6 相談に乗る

芝居小屋。スモークがまだ残っている。  
恵、登場。

恵 「ごめんください！……ごめんくださいあい……。あのー、どなたかいらっしやいませんか……」

誰もいない。

恵、所在なげにブラブラし、腰を下ろす。

ウォークマンをかけ、マクドナルドのポテト(S)をかじる。

竹村、登場。恵に気づく。

竹村が後ろからそっと近づくと、恵、ウォークマンにあわせて歌い始める。

恵 (唄) ……あれは、だれだ、だれだ、だれだ……

あまりにも唐突なデビルマンのテーマソングに、竹村びびって腰が引ける。  
中原、佐藤、登場。

佐藤 だからさ、あれよ、あれ観た？ 『シー・オブ・ラブ』。

中原 観てねえよ。

佐藤 エレン・バーキン最高だぞ。…おお、どうしたタケ。

竹村、女を指す。

中原 あれ誰だ？

竹村 ……デビル。

中原 なんだそれは。

佐藤 ちよつとお嬢ちゃん。

佐藤、後ろから声をかけるが気づかず歌っている。  
そばまできて恵の目の前に手をひらひらさせる。

佐藤 おじよおちゃん。

恵 ……！ (死ぬほどびびくり、あたりに飛び散るポテト)

佐藤 ああ、ちよつと、こぼさないでよー…

恵 すみません！

恵、佐藤、ポテト拾う。

中原 ……誰だよあれ。

竹村 僕が来たときからいたんです。

中原 誰かのファンか。

竹村 高濱さんですかね。

中原 あいつならファンというより…コレかな。

中原、竹村同時に「ハラポテ」の動作。

竹村 高濱さんならあり得ますね。

中原 ここんとこなかったんだけどな…悪いけどタケ、それとなく訊いてみてくれ。  
竹村 はい。

竹村、恵に近づく。

竹村 …あの、すみません。コレですか。

中原 バカヤロ。

竹村 あいた。

中原 そ・れ・となく訊けて言ってるんだろ！

竹村 すいません。

中原 もいいからおまえ仕事してろ。

竹村、舞台装置を整え始める。

佐藤 なに、ああ、高濱のコレ？（ひろったポテトを中原に渡しながら）…任せた。タケ！一緒にやるうぜ。

中原 ちよつとお前らそれはないだろ…

村木と加代、登場。

村木 …だからさ、あれ観た？『チャイニーズゴーストストーリー』…

加代 観てませんよ。

村木 ジョイ・ウオン最高だよ。

中原 村木！ いいとこにきた。あれ高濱のコレ。あと頼むな。

中原、ポテトの袋を村木に渡し、さっさと退場。

村木 え、あ、ちよつと！

恵 あのオ。

村木 はい。

恵 実は人を訪ねて来たんです。わたし実は…

村木 ああ、うん、そうね、わかってるんだけど…

村木、観念して恵の相手をする。いつも彼はこういう役回りなのだ。

加代は竹村とふたりで吊り物を吊っている。

佐藤はいつの間にか消えている。

村木 いやあの人もね、根っから悪いやつってわけじゃないんだよね。ただね、女関係

はちよつと彼の場合複雑っていうかさ。

恵 女関係って…そんなにひどいんですか。

村木 はつきりとは言いにくいけど、ひどいなんてもんじゃないよ、はつきり言って

恵 教えてください…どこに住んでるんですか。

村木 （ポテトをかじりながら）どこって、住んでないよ。

恵 住んでないって…

村木 だから女のとこ順番に泊まり歩いてるから。だいたい半月くらいでローテーションしてるのかな、今は。

恵 どうしてそんな…お兄ちゃんあんなに真面目だったのに…

村木 いや真面目ってことはないでしょ、お兄ちゃんは…え、お兄ちゃんってなんだよ。

恵 あたし妹です。

村木 そうなんだ…。なにイ！ 高濱さんの妹？

竹村と加代もびっくりしている。

村木 初耳だなあそれは…

恵 本当です。私、恵っていいいます。高野恵。

村木 恵ちゃんか…高野…タカノ…？ 高濱じゃなくて？

恵 高野です。

村木 でお兄ちゃんは高濱…結婚してんのか君は。

恵 あたし高校生です。お兄ちゃんも高野です。高野悟です。

村木 悟…？ 悟の妹オ？ あいつ妹いたんだ。なんだそっか…疲れるなもう。

加代 そっかわれるとなんとなく似てるわね。

竹村 瓜二つです。

村木 じゃあ兄貴に会いに来たのか。田舎から…

加代 田舎どこなの？

恵 あ、喜多方です。…あの、兄は…

村木 ああゴメン。こっちの勘違い。兄貴がんばってるよ。まあ大学はほとんど行ってないみたいだけどさ…今度、音響<sup>オ</sup>だけじゃなくて役者までやることになっちまってさ、張り切っちゃってるよ。心配ない心配ない。

恵 会わせてください。連れて帰ります。

村木 え？

恵 連れて…帰るんです…（泣き出したいのを堪えている）

村木 （胸キュン状態）…ちょっと恵ちゃん…あのさ…（散々迷うが肩に手をおく）泣いちゃ駄目だよ。…な。…泣かない泣かない。な。（竹村と加代、手を止めて注目している）なに見てんだよ…いいから吊れよ！…恵ちゃん…田舎でなんかあったのか…ん？…よかったら俺に話してみな…な。…（竹村・加代に）吊れっっていつてんだろ！

村木、恵を支えるようにして歩き出す。

村木 （竹村・加代に）…ちょっとアトム行ってくるから。いいから吊れ！ 見てんじゃ

ねえ！

村木と恵退場。

竹村、加代顔を見合わせているが、追いかけて退場。

## SEQ7

## 根性で頑張る

会長の部屋。

会長登場。

後方に2号登場。

会長 2号！ 2号はどこへいった！

2号 ツツツ、ツーツー、トトトト…

会長 ……なんだこの音は…

2号 トトト、ツー、トトト…

会長 (モールスを打つ真似)…トトト、ツー、トトトトト…

2号 (嬉しそうに) トトトト、ツーツー、トトト

会長 モールス信号だったか。(打電の真似をしつつ) ニ、ゴー、ナニ、ヲ、シテ、イ

2号 ル、サツサ、ト、コン、カ…。

2号 カシ、コ、マリ、マシ…

会長 (2号と目が合う) いるだろそこに！ わけのわからんマネをするなっ！

2号 はっ。どつりゃあ！ (前転して忍者座り)

会長 その座り方はやめろっ！

2号 はっ。(直立不動)

会長 ひなげし湯のほっはどくなっている！

2号 はい。大衆の銭湯離れが進んで、経営状態はかなり苦しいようです。ただ経営者

がかなりの頑固者です。

会長 地上げ屋を使っているのか。

2号 はい、ただ時節柄あまり派手には動けませんので。

会長 急げ。とにかく急がねばならん。…緊急事態が起こった。

2号 緊急事態とは？

会長 1号だ。1号がいなくなった。

2号 1号が？ 1号は博士のところにはいたはずでしょ？

会長 その博士から連絡があった。散歩の途中で姿を消したそうさ。

2号 人間型コンピュータが、散歩。

会長 おまえのように外で活動しているわけではないからな。ときどき馴らし運転をし

ないと可動部分が焼きついてしまうんだ。

2号 しかしいったいどうして…

会長 わからん。だが1号が行方をくらましたことは事実だ。これがどついついことかわ

かるか。

2号 1号には今回のその風文化圏構想の計画のすべてが、データとして収められてい

ます。それが消えたということは…

会長 そうだ。おれは今回の計画を進めるにあたって2号、おまえを表、1号を裏とし

て、表裏一体の使い分けをしてきた。おまえが手足なら1号は頭だ。いいか2

号。1号の行方を探し出せ。これが1号の写真だ。(手渡す) 大至急だぞ！

2号 かしかなんの手がかりもないんじゃない…

会長 手がかりは水だ。

2号 水？



会長 1号はもともおれの海外事業部時代、サハラ砂漠の緑化計画に携わっていたと  
きに開発したコンピュータだ。強力な水源探知機能が備わっている。海や川など  
に惹き寄せられていく性質がある。

2号 ひなげし湯のほうはどうします。

会長 それも大至急なんだよ！

2号 ちよつと待つてくださいよ。いくらなんでも手が足りませんよ。

会長 2号！ 聞きわけろ！ ここが正念場なんだぞ。反会長派がいつ嗅ぎつけるかわ  
からん。特にあの社長秘書の…

2号 ああ、堤一族の血をひいてるっていう…

会長 サラブレッドづらしやがって、このおれを成り上がり扱いしていやがる…。おれ  
が失脚すればあいつがこの部屋に…この椅子に座るんだ！

2号 ではひなげし湯のほうから…

会長 両方進めるんだ！ 何度言ったら分かる！

2号 はっ！ うおりゃあ！ どうりゃあ！ (逆ギレ)

会長 その座り方はやめッ…(会長、心臓を押さえて動きを止める)……ろ…。

会長、よろよろと椅子に座り込む。

2号 ……会長。だいじょうぶですか。顔色が…。

会長 ……だいじょうぶだ…。(呼吸を整え、抑えた声で)……1号は、おまえより旧型の  
第七世代コンピュータだ。機械としての寿命が近い。放っておけば機能は完全に  
停止し、すべてのデータは失われてしまふ。おまえのように無限の動力を持って  
いるわけではないのだ。

2号 ……。

会長 1号をもとに改良を重ね、携帯電話機能や

2号 RRRRR…

会長 両眼には高性能オートフォーカス一眼レフを内臓し

2号 っい、っいーん、パシヤ。

会長 完成したのがおまえだ。おまえならできる。おれが頼れるのは2号、おまえしか  
いないんだぞ。

2号 ……会長…(感動している)わかりました。なんとか根性でやります！

会長 頼むぞ。ひなげし湯のほうは強引な手を使ってかまわん。その頑固な経営者の泣  
き所を押さえろ。いいな。

2号 わかりました。銭湯の客、家族構成を洗ってみます。

2号、会長、別れて退場。

## SEQ8 あこいもじと

芝居小屋。

悟、登場。

作業を始める。  
高濱、登場。

悟 あ、高濱さん。

高濱 よう、久しぶりだな。…やれやれ、また演んのか？

悟 高濱さん役決まってるみたいですよ。

高濱 そうかい、なにやるって？

悟 中原さんの話だと、なんかオカマの役らしいです。

高濱 ふーん。

悟 今回、なんかおれも役貰っちゃって。

高濱 (怖い顔をする) おまえが役者やんのか。

悟 ……すみません。駄目ですか。

高濱 ううん。ガンバってね。(ポケットからカセットテープを出す) これかけてくれない？

悟 ……

悟 テープを受け取り、退場しかけて

悟 ……あの

高濱 ん？

悟 高濱さん、昨日は？

高濱 昨日がなに？

悟 いやあ、昨日はどこだったのかなあ、なんて。

高濱 んーと、高円寺。

悟 あ、なるほど。

高濱 なにがなるほどだよ。

悟 イヤ別に。

高濱 おまえだって女のひとりやふたり居んだろ？

悟 いないっすよ、おれ。こっち出てきたばっかりだし、大学あんまり行ってないし。

高濱 田舎どこだっけ？

悟 喜多方です。

高濱 あー、蔵の街だ。田舎で待ってるコレが居んじゃねえのか、え？

悟 ……あの、これA面ですか？

高濱 ん？ どっちでもいい。そのまま適当にかけて。

悟、退場。

入れ替わりに奥から竹村、登場。

竹村 あ。

高濱 ……

竹村 高濱さんだ。(嬉しそうに寄ってくる)

悟がかけたテープの曲が流れ始める。  
RCサクセション『ドカドカうるさいR&Rバンド』。

高濱 タケか。

竹村 ハイ！

高濱 久しぶりだな。

竹村 ハイ！

高濱 おまえまだこの追っかけやってんのか。

竹村 ハイ！

高濱 そうかそうか。おまえもアレだな、そろそろ中原に役でも貰って、ここらでは

あつと一花咲かせたいだろ！

竹村 イヤア、ぼくなんかまだまだ！

高濱 うん、そうだな。

竹村 …。

高濱 まあ、また徹夜でコイン落としでもやるうや。なあ。

竹村 ハイ…。

竹村、とぼとぼと作業にかかる。

加代、登場。

加代 おはようございます。…あ。

高濱 お。

加代 高濱さんだ。色魔の高濱さんだ。

高濱 相変わらずだなおまえは。でっかいケツして。

加代 ほっとして下さいよ！

加代、作業にかかる。

高濱は座って眺めている。

悟、再登場。

竹村 あ、あ、

加代 悟。昨日なんでこなかったの。

悟 ごめん。一昨日徹夜で曲選びしてて、起きたら夜だった。中原さんとか怒ってた？

加代 そんなことじゃなくてね、昨日来たのよ。

悟 来たってなにが？

竹村 デビル。

悟 …？

竹村 (唄) あれは、デビル、デビル…

加代 わかんないでしょそれじゃ。あのね、恵ちゃんがきたのよ。

悟 めぐみ…って…

加代 あんたの妹でしょ。喜多方から出てきたっていう…

悟 嘘だろ？

加代 ほんと。昨日ここに訪ねてきて、お兄ちゃん連れて帰るって、大変だったんだから。

竹村 村木さんがもう、たいへん。

加代 そうそう！あの村木さんが胸キュン状態でさ、アトムに連れてっちゃって。ねえ！

悟 …。  
 加代 悟、あんた実家に連絡先教えてないの？ お兄ちゃんどこ住んでるかも知らないって言ってたわよ。

悟 …（高濱を見る）

高濱 …おまえが帰んなくてもイナカのほうから来ちまったみたいだなあ。

加代 泊まることもないって言うから、仕方なく村木さんが自分の下宿に連れていったみたいけど。

高濱 なにっ。そりゃ危ねえんじゃねえか、おい。

竹村 高濱さんじゃないんですから。

高濱 なにい！…そつだな。

悟 …ちよつと出てきます。

加代 あ、ちよつと、悟！

悟、退場。

加代 …なにあれ。

竹村 セイシユン、ですかね。

加代 なにそれ。

竹村 いや、なにと言われても。

中原、登場。

中原 おい、なんだか悟が血相変えて出てったぞ…。お。来たのか。

高濱 ういっす。

中原 聞いたか？

高濱 オカマだろ。

中原 ああ。いいか。

高濱 やれと言われればなんでも演るよ、おれは。

中原 加代、昨日の子、悟の妹だったんだって？

加代 そうなの。

中原 今日はまだ来てないのか。

加代 来てないわよ。

中原 そうか。実はあの子な、使いたいんだよ。

加代 使うってなによ。

中原 地上げされてる銭湯のオヤジがいるだろ。

加代 北条さんの役でしょ。

中原 それにひとり娘がいてさ、敵の手先つまり西武の会長の手先のロボットにさらわれちゃうんだよ。その娘の役がさ、イメージぴったりなんだ、あの恵って子。

加代 なにそれ芝居で使うってことなの。

中原 そつだよ。

高濱 またおまえはそつやって突拍子もないこと言い出す。

加代 ちよつと待ってよ。あの子は悟を連れ戻しにきてんのよ。経験あるかどつかもわかんないのよ、だいたいあの子は悟の妹なんだから悟に相談せずに決めちゃっていいの？

中原 …ま、それはそれとして。

加代 それの問題なんじゃないですか、だって。

高濱 駄目だよそんなこと言ったって。こいつはね、一回思いついたら滅多なことじゃ諦めないんだから。

加代 だって大変ですよ。悟だって役者はじめてだし、そりゃ会長とか手先のロボットとかは中原さんや佐藤さんだから安心してられるけど、村木さんだって舞台と兼任で手一杯だしこのうえ…

高濱 ちよつと待て。

加代 …。

高濱 中原、おまえ出る気か。

中原 出るぞ。

高濱、じつと中原を見る。

曲はバラード調の曲に変わっている。

RC『ヒッピーに捧ぐ』。

高濱 …。おまえが出るならおれは降りるぞ。

加代 …。高濱さん。

高濱 中原、おまえこないだの公演がハネた後おれになんて言った。次回は台本に専念するって言ったろうが！

中原 役者が足んねえんだよ。背に腹は換えられないさ。

高濱 だったらホン変えりゃいいだろう…！

中原、答えない。

高濱の剣幕に加代と竹村は息をするのも忘れて固まっている。

高濱 (小さく舌打ちして)…加代、はずせ。タケも。

加代 でも…。

高濱 いいからはずせ。

竹村、加代を引っ張って、ふたり退場。

中原 …。

高濱 どういっつもりなんだよ。

中原 …。

高濱 おまえ自分の駄わかってんのか。…ほんとだったらな、こつやって外出歩くのも医者の特許が必要なんだぞ。

中原 …。

高濱 それを役者で出る？ 自分で自分の寿命縮めてるようなもんだらうが！

中原 …。

高濱 中原、聞いてんのか！…なあ、役者ならおれが連れてくるよ。頼むから…

中原 高濱。

高濱 …。

中原 おまえ何様のつもりだ。

高濱 …。

中原 おまえは役者でおれは演出だ。役者もホンの中身もおれが決める。

高濱 …。

中原 やれと言われりゃなんでも演るって言ったな、高濱。

高濱 …。  
 中原 高濱ッ！  
 高濱 言ったよ！  
 中原 … 最後までつきあってもらっぞ。  
 高濱 …… わかったよ。  
 中原 誰にも言っつてないだろうな。  
 高濱 ああ。  
 中原 言っつなよ。言っつたらおまえでも… 殺すぞ。  
 高濱 …。決めゼリフのつもりかよ。へボなホン屋だよ。

と、高濱捨てゼリフとともに退場。  
 中原、ひとり残る。

中原 … ほっとけ大根。

バラードが続いている。  
 しばしぼう然と座っている中原。  
 恵、登場。

恵 あの…  
 中原 あ、恵ちゃん。いいところへ来た。  
 恵 あの、兄はまだ…  
 中原 恵ちゃん、芝居やろう芝居。  
 恵 ハア？  
 中原 ぜひ君を使いたいんだ。経験なくても全然かまわないから。どうだ、うんと言っ  
 てくれ。ウン（声色）。そつが、やってくれるか、よかったよかった。  
 恵 そんな、困ります。あの、お断りします。  
 中原 そう言っつなよ頼むからさ。  
 恵 あたし、もう足洗ったんです。  
 中原 は？ 足？  
 恵 高校ですつと演劇部だったんです。  
 中原 …… こうこうえんげき…（ズルズルと力が抜ける）… いや、ここでめげてなるもの  
 か。… い、いい！ それでもいい。この際許す。  
 恵 そんなことより兄はどこですか。  
 中原 そんなことより芝居だ。芝居やろう！ 高校演劇でもいいから！  
 恵 お断りします。  
 中原 なにイ… ここまで譲歩しているんだぞ。

竹村、登場。

竹村 あの、あの、悟くんが…

竹村の後から悟、登場。

悟 恵…  
 恵 お兄ちゃん…  
 悟 久しぶりだな。

恵、悟に近寄る。  
いきなり飛びついて、首を絞める。

悟  
ぐえ。

中原 おい！ こら、ちょっと待て！ タケ、とめろ！

竹村 恵ちゃん落ち着いて！

中原 こら、首はやめなさい！

中原、竹村、取っ組み合っふたりを引き離す。

恵 (中原に押さえられながらわめく) お兄ちゃんのバカ！ あんな家にあたしのと残してさつさと東京行っちゃって、こつやって自分ばかり好きなこととして！ お兄ちゃんなんか嫌い！

悟 …このやろう、やったな！

中原 あ。

悟 竹村の手を振りきって恵に飛びかかる。  
恵、中原の手を振りきって応戦。

悟 こつしてやる！

竹村 悟くん、落ち着いて！

中原 おいこら！ 首はやめろって言うてんだろ！

必死にとめる中原と竹村。  
再び引き離される悟と恵。

中原 …(荒い息) いい加減にしろっ！ なんだか知らんがとにかく暴力はよせ！

睨み合って黙っている兄妹。

中原 …まったく…。まあとにかくおれたちが居ちゃ話しづらいだろっから、一応席外すけど、悟！ 暴力はよせよ、いいな！

悟 …はい。

中原 ちゃんと話し合えよ。…タケ、いくぞ。

中原、竹村、退場。

恵 …。

悟 …なにしに来たんだよ。

恵、悟に近づいて、今度は抱きつく。

恵 お兄ちゃん…。

悟 …。

恵 会いたかった…。

悟 なんだよ、なに泣いてんだよ。

恵 ごめん。

悟 ごめんじゃねえよ。こんなところまで来やがって。

恵 ごめん。

悟 なにしに来たんだよ、それを言えよ。

出て来ちゃった。

なんで出て来んだバカ。おまえまだ高校生だろ、学校はどうすんだよ、え。

やめちゃった。

やめちゃったって…簡単に学校やめちゃっていいのか？ おまえ、どうすんだよ。

バカだな、やめちゃ駄目だろ学校は。

お母さんたちは毎日ケンカしてるし、もつあんな家居たくない。お兄ちゃん狡い

よ、あたしにばかり家のこと押しつけて…。

さっさと離婚しちまえはいいんだよ、あんな夫婦…そりゃおまえには悪いこと

したと思ってるぞ。

ならお兄ちゃん帰ってきてなんとかしてよ。あたしのこと助けてよ！

帰らねえよ、おれは。あんな家。

…じゃあ、あたしも帰らない。

なに。

お兄ちゃんといっしょに暮らす。

バカ言うな。無理だよそんなの。

バカじゃないもん。…決めた。あたしお芝居出る。

お芝居？

さっき誘われたの。お兄ちゃんと一緒にやる！

恵、すたすた退場。

悟、あ、おい、ちよつと待てよ、恵！

悟、慌てて追って退場。  
暗転。



## SEQ9 恋が渦巻く

ひなげし湯の脱衣所  
流れる演歌。  
明美と麴町が鏡の前にいる。  
番台には例の少女が座っている。

銭湯の主人が登場。  
目に見えて傷が増えている。  
麴町、脱衣籠を並べ直す主人を鏡越しに見ながら

麴町 … 日に日にひどくなるなあ。

明美 見上げた根性よね。この頃じゃさ、地上げ屋のほつが音を立てて、音上げ屋になってるって話よ。

麴町 … (冷たい視線)

明美 …

麴町 なかなか見かけによらず骨のある人物だよなあ。あの子だって結局どつから来たのか、素性もわからないって話じゃねえか。

明美 あの子、記憶喪失かもしれないだって。

麴町 それをああやって住み込みで働かせて世話してやってんだから…。人情紙の如しと言えども世の中まだまだ捨てたもんじゃねえや、きしょうめ。

明美 だけどねえ、時間の問題だと思っわよ。なんたって相手は天下の西武グループでしよ。

麴町 へっ。いくら西武だって世の中には法律ってもんがあるだろ。いざとなったら警察ってもんだってあんだしよ。

明美 バカねえ。あんたなんだってそうやって世間知らずなの。警察だってねえ、今じゃ西武のもんなのよ。

麴町 ほんとかよ…。

明美 ホントよ。知らないの西武警察。

麴町 …どこまで本気なんだあんたは…。

主人、退場。

2号、登場。番台で金を払う。

少女 (番台から) いらっしやいませ。

2号 パシヤ、ういーん。

麴町 …。

2号、脱衣所の中をうろつろつしている。

麴町 なんだありや。

明美 …。

振り返った明美と目が合う瞬間。

2号 パシヤ、ういーん。(離れていく)

明美 …。

麴町　なんか怪しい奴だな。変態じゃねえか？　なあ。  
 明美　……素敵。  
 麴町　そうだよ、素敵と言えば……なにイ。なんだそりゃ。  
 明美　超タイプ。  
 麴町　おい。

明美、2号にすり寄って、くっついて歩く。

麴町　：わかんねえ、オカマの考えることは……

学生（田端）、登場

少女　いらっしやいませ。

田端　やあ。

麴町　おつ、学生さん。試験済んだかい。

田端　お陰様で。……なんすか、あれ。

迷走する2号の後ろを明美がくっついて歩いている。

麴町　オカマの恋だ。気にするな。

2号　（田端の前に来て）パシヤ、ういーん。

田端　わ。

2号、離れる。

明美、鏡の前に戻ってくる。

麴町　：妙なやつだな。

明美　いいわあ、あの人。

麴町　そうかね。変な趣味してんね。

明美　なによあんた人の恋心にケチつけないですよ。じゃあんたの趣味どんな趣味だった  
 いうの。

麴町　おれの趣味がなんだってんだよ。

明美　（鼻で笑う）あたし知ってるのよ。あんたこの一人娘に惚れてんでしょ。

麴町　ば、バカなこと言うな！

田端　え、椎奈ちゃんに？

麴町　椎奈ちゃんていつのか、え、そうなのか？（必死）そうかあ、椎奈ちゃんかあ……。

明美　あんたなんで名前まで知ってるのよ。

麴町　そつだ、なんで知ってたんだ、おまえは。

田端　ぼくバイトで彼女の家庭教師してるんです。

明美　あらそつなの。

麴町　家庭教師なあ？

麴町、いきなり田端の首を絞める。

田端　ぐえ。

麴町　このスケベ野郎。言え。なにをした。

田端　ぐ、ぐるじい……

明美　ちよつと、興奮しないで！　暴力はやめなさいよ！

騒ぐバカ三人をよそに、椎奈登場。

椎奈 あ、先生！ いらっしやい。

田端 やあ。

椎奈 (番台の少女に) ナナセちゃん、替わるよ。

少女 ハイ。

椎奈、番台に座り、少女は奥へ退場。  
それを潮に2号、出口へ向かう。

椎奈 ありがとうございます。

2号 パシヤ、ういーん。

2号、退場。

明美 (田端に) ちょっとちよっと、ナナセってなによ。

田端 あの子の名前らしいです。

明美 だって記憶喪失じゃなかったの？

田端 それしかわからないらしいんです。上の名前も、いくつなのか、どこからきたのかも。

少女、買い物籠を下げて登場。

少女 わたし買い物行ってきます。

椎奈 行ってらっしやい。

少女、退場。

田端 あ…。

田端、フラフラとその後を追いかけて退場。

明美 あら？ ちょっと学生さん？…完全に恋ね、アレは。(麴町を見る) あんたはいつまでぼーっとしてんのよ！

麴町 椎奈ちゃんかあ…

明美 駄目だ、これは。…ひなげし湯は今、ヨクジョーのルツボと化しているわ。あたしもあの人追っかけよっと。お先。

椎奈 ありがとうございますー。

明美、退場。

麴町 …。(ふと気がつくとき客は自分ひとり)

椎奈 …。

麴町 あ。椎奈ちゃんて、いうんだよね。

椎奈 はい。え、どうして知ってるんですか。…あ、そっか、先生に聞いたんでしょ。

麴町 そうなんだよ。

椎奈 先生と仲いいんですか？

麴町 うん、そうね、まあ、なんていうか、彼の行ってる大学の、まあ兄貴分みたいなさ、そんな大学にぼく、行ってたもんだから…。

椎奈 わあ、そうなんですか。あの、あの、ちょっと聞いてもいいですか。(番台から降りてくる)

麴町 いいよいいよ、大歓迎だよ。

椎奈 あのう…先生、あたしのこと他になんか言っていました？

麴町 うーん…

椎奈 あたしこんな番台なんかに座って、男の人の裸とか見慣れちゃってるでしょう。ホントはいやなんだけど、お父さんすごく頑固であんな目にあっても絶対ここ売らないって。だからあたし手伝わないわけに行かないし。

麴町 うんうん。

椎奈 あの…先生が、そういう、女の子のこと、どんなふうに思ってるのかなあ、なんて…あたし、よくわからなくて…あの…あたし…あたし…

麴町 ああ…。そう、ひょっとして君は、彼のこと、好きなんだ。

椎奈 …。

麴町 ああ、言わなくてもいいよ。わかるよ、君の顔見れば。

椎奈 あたしそんなに顔に出ています？

麴町 わかるわかる。そういう時の気持ちはさ、おれもよおおおあーっくわかるよ…。わかった！ おれがあいつにそれとなく聞いてやるよ。な、だから元氣出しな。

椎奈 ホントですか、わあ、ありがとうございます…！

麴町 いいって。

椎奈 お願いします。あ。あたし、時間だから、釜の火落としてこなきゃ…。ホントにありがとうございます！

麴町 いいって。

椎奈、退場。

麴町 …。

麴町、退場。

## SEQ10 作戦を練る

会長の部屋。

会長登場。

後方に2号登場。

会長 2号！ 2号はどこへいった！

2号 ……クルッポウ…クルッポウ…バサバサバサバサ…

2号、伝書鳩を放つたらしい。

会長 なんだこの音は…。

2号 バサバサバサバサバサバびたっ。

会長 おわ。(肩にとまる)……伝書鳩だ。(足から手紙を取り、放つ)

2号 バサバサバサバサ…(鳩は2号のもとに帰る)

会長 (手紙を読み始める) なになに『拝啓、会長様。ごきげんはいかがですか。2号です。体の具合はどうですか…(2号がオーバーラップする)』

会長・2号 この頃疲れがたまっているようなので心配しています。くれぐれも気を付けてください。(会長、フェードアウトする)

2号 バイザウェイ、わたしは今、会長の命を果たすため、生まれ変わったつもりで仕事に取り組んでいます。今日はひなげし湯に行ってきました。銭湯の客や、関係者を写真に撮るためです。いっぱいいい写真が撮れました。バット、フィルム代がかかって…』

会長 (2号を見つけて) いるんだよおまえはいつも！ そのバイザウェイってのはなんだ！ わけのわからん真似はやめてさっさと写真を出せ！

2号 はっ。

2号、写真の束を取り出す。

2号 これがひなげし湯の主な利用客と家族です。(写真を示しながら) まず麴町守、会社員三十一歳。これはうちの系列会社の社員です。…田端敬夫、奥多摩産業体育変遷大学一年、十九歳。…ゲイクラブ「ブルーシャトー」のホステス明美、本名角田貞春<sup>かくたのさかると</sup>二十九歳。そして経営者ひなげし玄蔵五十二歳。さらにその娘椎奈、十七歳。そしてもうひとり住み込み居候の…あれ、これは会長に頂いた1号の写真ですね、失礼。…あ、これだ、身元不明のナナセと呼ばれる少女…あれえ…同じじゃないか。

2号 なんで二枚あんのかな…。あれ、でもこれは確かに会長に頂いた写真で…こっちはナナセって娘で…それが同じってことはつまり…

会長 1号だ！ こいつが1号だ！

2号 ええっ！ なんてひなげし湯に…

会長 おれは1号を作ったとき、最初の第七世代コンピュータである彼女にナナセというニックネームをつけた。それがまだメモリーに残っていたんだ。えーい、なんでその時すぐ気付かないんだ、おまえは！ 連れてこい！ すぐ連れてこい！

2号 はっ！ (駆け出す)

会長 いや待て！

2号、とまる。

会長 2号、俺たちが今しなければならぬことはなんだ。ひとつ。

2号 1号を寿命が切れる前に収容すること。

会長 ふたつ。

2号 ひなげし湯の土地を手段を選ばず買収すること。

会長 そして今、ひなげし湯に1号がいる。これを天の配剤とせずになんとする。

2号 はあ？

会長 1号を取り戻し、同時にひなげし湯を我が手に収めるには…(一枚の写真を示す)こいつだ、こいつを使うんだ。(写真を2号に渡す)誘拐しろ。

2号 主人の娘…

会長 1号をさらっても土地はすぐに手には入らん。だから同じさらうなら娘の方をさらって、ひなげし湯にはこう伝えるんだ。土地の権利書を1号に持たせて寄越せば、娘は返してやる、とな。

2号 会長…なんて頭がいいんだ！

会長 感動していないでさっさと行け！

2号 わかりました。さっそく。

2号、退場。

会長 …もうすぐだ。もうすぐで、おれの横馬場線が…。

会長、退場。

## SEQ11 告白する

買い物籠を下げた少女(ナナセ1号)登場  
追って田端登場。

田端 ナナセちゃん…!  
1号 あら、学生さん。  
田端 おつかいかい?  
1号 ええ、そのスーパーまで。  
田端 じゃ一緒に行くか…。  
1号 ハイ。

歩き出すふたり。

1号 …あの、学生さん。  
田端 …田端。  
1号 あ、田端さんは、椎奈ちゃんの家家庭教師をしてらっしゃるんでしょう?  
田端 ウン、そうなんだ。…あの、ナナセちゃんはさ、えーと、どんな食べ物好き?  
1号 食べ物…(考え込む)  
田端 あ…ごめん…。じゃ、じゃあさ、どんな色が好き?  
1号 色…  
田端 あ…ごめん…。じゃあ、あの…遊びに行くとしたらどんなところか…ごめん…あの、無理に思い出さなくても…ごめん…  
1号 ……海。  
田端 え?  
1号 海。…ここからずっと南に海があって、そこが…  
田端 う、海ね。海はいいよね。じゃあさ、いつか、いつか海行こうよ。いっしょに海行こう!  
1号 …。

1号、考えているが、静かに首を横に振る。

田端 なんで? だつてさ、だつて、そう、海に行ってみたら、何か思い出すかもしれないじゃないか。…おれ、力になりたいんだ、ナナセちゃんの。だから…  
1号 …うれしい。だけど、約束できないの。  
田端 どうしてさ。  
1号 …あたし、もうすぐ、止まるの。  
田端 止まるって…なにが。  
1号 あたし。あたしそのもの。もうすぐ動力がなくなって止まるの。それでおしまいになるの。全部。  
田端 ちょっとナナセちゃん、なに言ってるのかわかんないよ。  
1号、やあから学生の手を取る。

田端 あ…  
1号 (手首を握らせる)…脈、ないでしょ。

田端 ナナセちゃん、冗談はよそつ。

学生、手を引こうとするが1号の力でヒクともしない。

1号 あたし嘘ついてたの、みんなに。本当は覚えているわ。自分がなんで、どこから来たのか。あたしは第七世代コンピュータ1号。あたしを作った博士のところから逃げてきたの。あたしは……人間じゃないのよ。

1号、学生の手を引いて心臓の位置へ。

田端 (照れて) ちょっと、まずいよ……まだ昏悶だしこんなところで……

1号 心臓の音する？

田端 (はっとして1号の顔を見る)……。

1号 これでわかった？……あたしはもうすぐ止まるの。だから約束できない。ごめんなさい。

1号、手を離し、去りかけて田端を振り返る。

1号 ありがとう学生さん。うれしかった。

1号、退場。

田端 ……。

田端、ぼつ然と自分の手を見つめたまま、フラフラと退場。



## SEQ12 お金を借りる

芝居小屋。

なんだか脳天気な音楽が流れる。

村木と高濱、登場。

村木 だからさ、高濱さん、頼むよ、なんとかしてよ。

高濱 だからおまえなにをどうしたいんだよ。

村木 なにをどうしたらいいかわかんないから聞いてんじやないの。

高濱 要するにあれだろ、おまえ恵ちゃんに惚れちゃったわけだろ。

村木 そういうわけじゃなくてさ。

高濱 じゃどついうわけなんだよ。

村木 気になって気になって眠れないんだよ。

高濱 そういつの惚れちゃったって言ったんだよ。まったくおまえは相変わらずそついう方面弱いな。

村木 だからそついう方面にしか強くない高濱さんにこつやって聞いてんじやない、どつすりゃいいか。

高濱 おまえな……。それが人にものを頼む態度か？ まいいや。とにかく相手に自分のこと印象づけなきゃ駄目だろつ。

村木 だからそれはどうやって。

高濱 まあ、そうだなあ、手っ取り早いのは金を借りるんだな。

村木 ……金エ？

高濱 そつ。ちよつとだけな。そつすつとな、相手は金を貸してるわけだから、おまえのことをなにくれとなく思いつくさ。

村木 ……

高濱 そんなかなか返さない。いつになったら返してくれるんだろつ、相手はますますおまえのことが気になる。

村木 ふんふん。

高濱 で、頃合いを見計らって、また借りる。

村木 ……

高濱 そつやつて雪ダルマ式に借りてゆく。相手はたまりかねて返済を迫る。当然返すアテはない。そこでおまえはおもむろに、体で借りを返す。

村木 高濱さん。

高濱 おれはだいたいそつしてるんだ、どつだ。

村木 どうだじやないよ。あんたに聞いたのが間違ってたよ。

高濱 あそつ。ところでさつきから気になってただけど、この曲なんだよ。誰の趣味だこれ。

村木 さあ。

北条、恵、話しながら登場。

恵を意識して固くなる村木。

恵 へえー、じゃあ会社勤めしながらお芝居してるんですかあ。

北条 そつなんだよ。おかげでいつもセリフほとんどないんだけどね。

恵 あ、おはようございます。

村木 や。  
 高濱 ハアイ。  
 北条 あ、どうもご無沙汰します。  
 高濱 北条さんどうしたんですかこんなに早く。  
 北条 今日会社、創立記念日です。  
 高濱 あそう。ところでコレ(曲)北条さんの趣味でしょ。  
 北条 はい。  
 高濱 やっぱり…。  
 恵 中原さんに聞いたんですけど、あたしと北条さん親子の役なんですって。  
 高濱 あそう、よかったねえ。じゃあこれから北条さんのこと、お父さんと呼んじゃいなさい。  
 北条 娘よ。  
 恵 おとうさま！(ふたりとも高校演劇風)  
 高濱 だいじょうぶかなホントに…あ、ところで恵ちゃん。  
 恵 ハイ。  
 高濱 村木くんがね、恵ちゃんにお金借りたんだって。  
 恵 お金ですか？  
 村木 バ…いや冗談だよ、冗談。  
 北条 村木くん！ どうしてそういうことぼくに言わないの。  
 村木 あ、いや…  
 北条 ぼくはねえ普段参加できないぶん、そういうことがあったら精一杯社会人として協力したいんだよ、困ってるんなら言ってよ、ぼくに。  
 村木 いや、あの、そういうわけじゃなくてですね…  
 北条 いくら？ ん？  
 村木 …あ、じゃあ、五千円、ほど。すいません。  
 北条 じゃこれ。いつでもいいから。出世払いでいいからね。  
 村木 村木、北条から五千円札を一枚手渡される。  
 村木 …。  
 高濱 …。よかったね。  
 恵 あの、兄貴見ませんでした？  
 村木 ああ、さつき加代とアトムにいたよ。あいつら絡み多いからなんか相談してんだろ。  
 恵 加代さんと…  
 村木 どうかした？  
 恵 …あたし、アトム行ってきます。  
 恵、退場。  
 高濱 …どうする村木。ありや相当なブラコンだぞ。  
 村木 それより悟と加代っていつのはヤバイだろう。  
 北条 加代ちゃんは中原くんにホの字だからねえ。  
 高濱 ホの字…おとうさん、相変わらずいい味だしてるわ。  
 村木 中原さんは相変わらず柳に風だからなあ。

北条 芝居中毒だからねえ、彼は。

村木 芝居オタクっていうか…

北条 芝居フエチ。芝居以外じゃ興奮しない。

村木 加代も可哀相になあ。

とかなんとか言いつつ北条、村木、退場。

高濱 …おまえら、いないと無茶苦茶言つなあ…

高濱、独ゼリ風。

高濱 …時間がねえんだよ、あいつにゃ…。やりたいことを上から順にやってくだけの時間しか…。(ふと我に返って) なーんちゃって。

高濱、すたすた退場。

## SEQ13 誘拐する

田端、登場。  
自分の手を見つめたまま、トボトボと歩いている。

田端 … ナナセ …

椎奈、追って登場。

椎奈 あ、いた！ 先生！

田端 …。

椎奈 先生！ 見て見て、ジャーン、期末テストの数学！ ホラ、すごいでしょ。

田端 … ああ …

椎奈 自分でも信じらんない。先生のおかげよねエ。

田端 信じ…られない…

椎奈 … 先生？

田端 どうすりゃいいんだ…。

椎奈 先生、どうしたの、なんか変だよ。

田端 …。

椎奈 先生ったら！ ねえどうしちゃったの。しっかりしてよ！

田端 … そうだ… しっかりしなくちゃ。… たとえ相手がコンピューターだろうがカンピョー巻きだろうが、好きなものは好きなんだ…！

椎奈 先生なに言ってるの？

田端 椎奈ちゃん、ありがとつ。先生勇気が出たよ。もう一度ナナセちゃんにアタックしてみるよ！

椎奈 … 先生…、ナナセちゃんのが…、好きなの…？

田端 椎奈ちゃんも応援してくれるよね。… よーし、まずコンピュータの勉強だ！

田端、退場。

椎奈、ひとり残る。

悲劇的な曲と明かり。  
椎奈の失恋の踊り。

2号登場。

誘拐の踊り。

2号、椎奈を抱えて去る。  
椎奈の帽子だけが残っている。

## SEQ14 条件を呑む

承前曲。

(同じ曲に乗せて、以下の所作が行われる)

麴町登場し、椎奈の帽子を拾う。

慌てる麴町、そこらを探す。

明美登場。麴町、明美に帽子を見せる。

慌てるふたり、そこらを探す。

田端登場。明美、田端に帽子を見せる。

慌てふためく三人、そこらを探す。

探しあぐねた三人、ひなげし湯に向かう。

主人登場。

怪我の度合いが深まっている。

三人駆け込んできて主人に帽子を見せる。

ガツクリと膝をつく主人。

そこへ電話がかかってくる。

後方には2号が登場。

主人、電話をとる。

2号、電話で主人に要求を突きつける。

麴町が2号を発見。

三人で2号に飛びかかるが、2号強し。

倒れた三人を尻目に、2号悠々と退場。

曲、フェードアウトし、ひなげし湯に沈黙がおりる。

明美 ……こうしてたつてしょうがないわよ。どうすんのよ。

麴町 椎奈ちゃんが人質に取られてんだぞ。言う通りにするしかないだろ！

田端 ナナセちゃんを犠牲にするんですか。

麴町 だからしょうがねえって言うてんだろ！

田端 しょうがないって…なにがしょうがないんですか！

麴町 しょうがねえからしょうがねえって言うてんだ！

明美 大きな声出さないでよ！

沈黙。

麴町 ……しよせんは機械だろ。人間じゃねえんだろ！

田端 ……！

田端、衝動的に麴町につかみかかる。

麴町 なんだこの野郎！

田端 もう一度言ってみろ！

明美 やめなさい！ やめなさいってば、「ラ！

明美、やっこのことばふたりを引き離す。

明美 あんたたちは、もう…！ ケンカしてる場合じゃないのわかってんでしょ！

田端 … ナナセは… ナナセは生きてんだ、生きて笑ったり喋ったりしてるんだ… 機械だ… 機械だ… 人間なんだ…!

鞠町 … じゃあおまえは椎奈ちゃんを見殺しにするのか!

田端 …。

明美 … ねえ、学生さん。向こうだってナナセちゃんを壊そうとか殺しちゃおうとか言ってるわけじゃないでしょ。取り戻したがるってことは、あちらさんにも彼女が必要な理由があるってことよね。

田端 … ナナセは… あの子には時間がないんだ…。寿命が近いんです、コンピューターの…。だからせめて最後まで好きなように… 自由にさせてやりたいんです…。わかるわ学生さんの気持ち… じゃあ…

明美、鞠町の手から、椎奈の帽子を取り、それを田端に突きつける。

明美 … じゃああんた、ご主人さんの気持ち、考えた?

田端 …。

明美 … あたしもここは向こうの言う通りにするしかないと思うわ。残念だけど… ご主人さんそれでいい?

主人 … 娘の命には換えられません…。

明美 … 取り引きは明日…。ナナセちゃんに権利書を持たせて椎奈ちゃんを取り戻す… いいわね。

田端 …。

明美、主人と鞠町に目配せして退場。

主人、鞠町、退場。  
学生、椎奈の帽子を握りしめたまま、立ち尽くす。

## SEQ15 幕間 〈悟と加代〉

空間はゆっくりと芝居小屋に戻る。  
田端がメガネを外すと、それは悟である。  
曲だけが流れ続けている。  
加代、登場。

加代 あら、悟、それ今度の衣装？

悟 うん、中原さんが普段着でいいって。

加代 この曲使うの？

悟 うん。

加代 ……どうしたの。元氣ないじゃない。

悟 ……加代さん。こないだの返事、おれ急がないから。おれ、加代さんが認めてくれるまで、頑張るからさ、芝居だってなんだって。

加代 困ったな。

悟 なんださ。

加代 急がないなんて言って、そうやってせかしてるじゃない。

悟 ごめん…。

加代 あたし今度でやめるの、芝居。

悟 ……嘘だろ。

加代 ホント。あたしね、ずっとある人のことが好きだったの。でもその人は芝居のこ  
としか頭にないの。だから振り切る。いつまでも待ってるなんて柄じゃないから。

悟 ……。

加代 なんてね。…いつもよ。いつもそう思って、今回が最後って思ってやってきた。  
でもきつと今度はホント。これで最後にするつもり。

悟 ……。

加代 だからゴメンね。…芝居がんばろ。

加代、去りかける。

悟 待てよ！

加代と悟の目があう。

加代、視線を外して退場。

悟、追って退場。

## SEQ16 海を見に行く

明美、麴町、走って登場。

麴町 駄目だ、いないんだ、あいつ。  
明美 下宿は？ 電話した？

麴町 ひなげし湯のオヤジさんに住所聞いて直接アパート行ってみたんだけど…

明美 さっきあたしもひなげし湯行ったの。朝からナナセちゃんの姿が見えないって。

麴町 あのバカ早まったことしやがって…。

明美 よっぽど思い詰めてたのね…。迂闊だったわ。

麴町 どうする。約束の時間まであと二時間しかねえぞ。

明美 心当たりない？ あのふたりの行きそうなどこ。

麴町 見当つかねえよ。

明美 いいわ。とにかくあたし仲間に声かけて探してみる。

麴町 仲間って…オカマ？…ホモダチ？

明美 あんたケンカ売ってんの？ あんたみたいな世間知らずは知らないでしょうけどね、この街にはハードゲイから女装専門まで、ざっと三千人のコレ関係の人がいて、独自のネットワーク持ってるのよ。

麴町 ネットワーク…

明美 人捜しなんかね、あつという間よ。オカマの情報網、舐めんじやないわよ。

麴町 はあん…。なんか知らん、怖い世の中になったもんだなあ。

明美 収まりかえってんじゃないわよ、行くわよ！

明美、麴町、退場。

1号、田端、走って登場。

田端 ちよ、ちよっとタンマ。…少し休もう…。

1号 だいじょうぶ？

へトへトの田端。全然平気な1号。

田端 どこまで来たんだろ。めちゃくちゃに走ってきたからなあ…。ナナセちゃんわかる？

1号 ここ？ 東経百三十九度四十一分、北緯三十五度四十二分よ。

田端 は？

1号 (笑って) なんでもない。

田端 そろそろ駅探して、電車に乗ろう。電車に乗ったら…

1号 電車に乗ったら…

田端 海だ！

1号 海ね。

笑いあふふたり。

1号 …あたしね、突然変異なんだって。

田端 なにそれ。



1号 博士が言ったの。あたしたち第七世代コンピュータは、人間の感情をとても器用に真似するけど、それは所詮はマネゴトなの。疑似感情回路っていうんだけど。あたしの場合、その回路が少し狂ってて、本当の感情に近いものが生まれちゃったんだって。だからあたしは機械の突然変異なんだって。

田端 だったらさ、もう人間だよ。泣いたり笑ったりするのが人間なんだからさ。  
1号 そうよね。そうかもしれない…。

1号、じつと考えている。

1号 だから、あたし、人間らしくしなくちゃ…。ご主人さんにも椎奈ちゃんにもとてもよくしてもらって、…。だからあたし、恩返ししなくちゃ…。

田端 …。

1号 学生さん、ありがとう。もう、戻ろう。

田端 ナナセちゃん…！

1号 いいの。だってもう本当に残りわずかだもの。自分でわかるの。あたしが止まるまであと三日…せめてあたしによくしてくれた人たちの役に立って終わりたいの。

田端 ちよつと待つてよ！

1号 本当はわたし、逃げたんじゃないの。…博士が逃がしてくれたの。きっと博士はあたしに言いたかったんだと思う。最後までいい人間らしく過ごさせて。だから、戻らなくちゃ。

田端 待つたら！

1号 サヨナラ。とつても、楽しかった。

田端 ナナセ！

麴町、明美、登場。

麴町 聞き分ける、学生。おまえの負けだよ。  
明美 あんたね、男は引き際よ。

明美、1号に大きな封筒を渡す。

明美 これ、ご主人さんから預かってきたわ。

1号 はい。

麴町 ナナセちゃん、なんて言っていていいかわかんないけど…ありがとう。

1号 そんな、いいんです。

明美 なかなかいい女よアンタ。

1号 …ありがとう。

2号、椎奈を連れて登場。

2号 娘はここだ。1号、こっちへ。

1号 …。

1号、椎奈、両端から歩き出す。  
中央ですれ違つふたり。

椎奈 ナナセちゃん…！

1号 椎奈ちゃん……元気で。

1号、2号のもとへ。  
椎奈、三人のもとへ。

2号 ……よし、取り引きは完了だ。では、ご機嫌よう。

1号、2号とともに退場  
無言で立ちすくむ四人。

## SEQ17 突破する

空間はゆっくりと芝居小屋へ。  
四人は思い思いの場所に。

村木 どうすんだよ。

高濱 どうしようもないだろ。

村木 手詰まりか…。

高濱 そうだな。

村木 おれたちがあれこれ考えてもしょうがねえんじゃないか？

高濱 手詰まりの張本人はどこ行ったんだ。

村木 ポンパドール夫人。

高濱 また、それが。

北条、スーツ姿で登場。

北条 おや、みんなどつしたんですか。衣装あわせですか。高濱くん、似合いますよ、なかなか。

高濱 どうも。

北条 …なんかみんな暗いですね。

恵 中原さんがね、芝居の構想に行き詰まって発狂しちゃったんです。

北条 あ、それですか。そういう時期になりましたか、もう。

恵 いつもなんですか。

北条 一回はありますね。

村木 今回は特に深刻みたいなんですよ。

北条 (恵に)うちはね、中原くんが粗筋出して、それをみんなで作っていくやり方だから、彼が詰まるとみんなどつしようもなくなっちゃうんです。

村木 北条さんはいいよ。ひとりでどんどん悲惨になってくだけなだもん。

高濱 時間の経過を一身に表現してるよな。

北条 そういふ言い方はないでしょう。

中原、フラフラと登場。

一回の期待の目の中、床に倒れ伏す。

中原 …だめだ。なんも思いつかん。

一同ため息。

中原は燃え尽きている。

村木 だいたいさ、1号と権利書を両方取られちゃうってのが拙いんじゃないの。だってもう打つ手ないじゃない。

中原 そうだな。

高濱 だからおまえはそうやって伏線も張らずにどんどん突き進んでっちゃうから駄目なんだよ、いつも。

中原 うん、そうだ。

悟 あの、ナナセが逃げて来ちゃうってのはどうでしょう。

中原 …駄目だ。だるい。

村木 おいおい、最初から作り直しなあ？ 勘弁してよ…。

一同、喧々囂々。けんけんさうさう

恵 あのう…言ってもいいですか。

中原 うん、そうだそうだ。

高濱 おまえ黙ってる、頭ん中真っ白なんだから。

恵 ひとりお話のなかでまだ出てきてない人がいるんですけど。

一同、ピンと来ずに顔を見合わせる。

恵 あの…博士って、まだあたし稽古でもお会いしてないんですけど、どなたが…

村木 あ…松富。

高濱 いたんだ、あいつが。

中原 (ガバと跳ね起きる) そうだ！ あいつに二役振るつもりで博士を用意してすっかり忘れてた。そこだ。そこを突破口にするんだ。途方に暮れたひなげし湯の面々は、オカマの明美の情報網で博士の居場所を突きとめ、彼を訪ねる。そこで明かされる意外な事実。それでいこう。松富を呼べ！

中原、すっ飛んで退場。

村木 とりあえず復活したぞ。

高濱 なんだよその意外な事実って…。

村木 とにかくなんか思いついたんだろ。いくぞ悟。

一同、散って退場。

## SEQ18 腹をくくる

博士、登場。  
その後ろから明美、麴町、田端、登場。

博士 …… そうですね。1号は会長のもとへ帰りましたか…。

麴町 まあ、帰ったっていうか、むりやり連れ去られたっていうか…。

明美 話によると、博士があの子を逃がしてあげたそうじゃありませんか。なんとかあの子、助け出せないかしら。

田端 彼女、あと三日で寿命が来るって言ってたんです。もう明後日です。なんとか…  
なんとか彼女の寿命を延ばせないんでしょうか。

博士 西武の会長が土地の買収に躍起になっているのも、1号を取り戻そうとするのも、彼が進めているある計画のためなんです。詳しくお話しするわけにはいかないが…。土地の権利書のことにはわたしにはどうにもできないでしょう。ただ1号の寿命のことなら、心配することはない。

麴町 というと？

博士 あの子の中核にあるのは最も初期の第七世代コンピュータだ。その寿命は限られている。だがその寿命を引き延ばすチップをあの子の頭部にセットすれば…

田端 助かるんですか！

麴町 そのチップって…

博士 わたしが会長の命を受けて開発したものです。既に完成し、つい先日会長に渡してある。おそらく会長の自宅の金庫に…。

明美 でもどうして西武の会長は…

博士 1号には会長の計画のすべてがデータとして収められている。だがそれだけじゃない…。1号には、モデルがいるんです。

博士、写真を一枚取りだし、明美に渡す。

明美 あら、これ、あの子じゃない？

麴町 だけどずいぶん古い写真だな。

田端 ナナセ… ナナセー！

麴町 うるせえな！ 写真くらいで興奮すんなっ。

博士 それは、十一年前に亡くなった、会長の母親です。

一同 えっ。

博士 早くに夫に先立たれ、女手一つで会長を育てた…。それは会長の故郷、横浜にまだ彼ら親子が住んでいたときの写真です。…働き口を求めて上京し、苦勞を重ねて息子を大学に上げた。会長は卒業して西武グループの系列会社に入社。母親に報いるため死にもの狂いで出世街道を駆け登った。…だがその時すでに、彼女はこの世になかった…。

明美 …… 身につまされなさいよ、あんだ。

麴町 言つと思つたよ。

博士 そして会長は、母親そっくりに1号を作らせた。若くて輝いていたころの母親そっくりだね。だから会長には、単にデータのかたまり、機械の道具としてでない思い入れが、1号にあるんでしょうな。

麴町 …なるほどねえ。

博士 わたしにはどうも1号が…あの子が機械と思えなくてね…。企業のなかで文字通り歯車として生き永らえるより、人間としての生活を味わわせてやりたくなくてしまつて…。わたしも妙に思い入れしてしまつたもんですよ…。失礼。

博士、明美から写真を受け取り、退場。  
思いをまとめきれない三人、残る。

麴町 …で、どうする。

明美 あたしさ、ひとつ思いついたことあんの。…でも学生さんがウンて言つかどうか…。

田端 …。

明美 できるかどうかわからないけど…そのチップつてやつ？ 会長の自宅にあるって言つたわよね。それ盗み出すの、あたしたちで。

麴町 ぬすみ…なにイ？

明美 だつてそこしかないのよ、会長より優位に立てるポイントは。会長はあの子を生き延びさせたい。あたしたちは権利書を取り戻したい。対等に取り引きするならそこしかないでしょ？

麴町 だつておまえ、そりゃ泥棒だぞ。

明美 そりゃそうよ。当たり前じゃない。いまさら綺麗ごと言つ気…。向こつはあんな、とつくに誘拐犯よ。

麴町 そりゃそうだけど…泥棒はまずいよ。

明美 ただね、結果的にあの子の命を取り引きの道具に使うことになるでしょ。だから学生さんがどう思うかなあつて…。

田端、じつと考えているが、顔を上げる。

田端 …おれ、やります。

麴町 おい。

明美 あら。

田端 博士だつて言つてた。このまま企業の歯車として、機械で終わるよりは…つて。あの子だつて、せめて最後くらい役に立ちたいつて。だから、おれやります。

明美 よく言つた。決まりね。決行は今夜よ。あの子のタイムリミットまで時間がないんだから。

田端 はい！

麴町 こら！勝手に決めんなよ！ おれヤダよ泥棒なんて！

明美 往生際悪いわね、あんた。腹くくりなさいよ。

麴町 泥棒はよそうよ、泥棒は…

三人、退場。

## SEQ19 忍び込む

夜の会長宅。  
忍び足の明美、麴町、田端、椎奈、登場。

麴町 泥棒はいかんよ、泥棒は…。  
明美 あんたここまで来てまだ言ってるの？ ホント粘るわねえ。  
麴町 だいたいなんで椎奈ちゃんまで…。  
明美 だって彼女がどうしても来たいっていうから。  
椎奈 あたしのせいで権利書取られちゃったんだもん。絶対取り戻すんだから。  
明美 そう言ってるでしょ。

針金で器用に鍵を開けていく明美。

麴町 おいおい、あんたなんでそんなこと出来るんだよ。  
明美 器用でしょ。  
麴町 ……どうも泥棒泥棒って拘こたわると思っただろ…。わかったぞ。あんたその道のプロだな。  
明美 人聞きの悪いこと言わないで。あたしね、錠前屋の一人息子だったの。たいがいの鍵はね、なんとかなんのよ。(ガチャリ)  
麴町 へえー、大したもんだなこりゃ。  
明美 だけど、あ、これ駄目…(ヨロヨロ)  
麴町 なんだよ、どうした。  
明美 このデジタルみたいの、全然駄目。あ、めまいする。  
椎奈 暗証番号かしら。  
麴町 三桁の数字だな。  
田端 ぼく、やってみます。

鍵を田端と椎奈に任せる。

麴町 なあ、やっぱりよそうよ。泥棒はいかんだろ…。  
明美 あんたまだ言ってるの？ もうツッ！ いい加減にしないとあんたの家に常田富士男のディナーショウの招待券送りつけるわよ！  
麴町 ……なんじゃそりゃあ！  
明美 知らないわよ、書いてあんのよ！ (台本らしきものを確認する)  
田端 あ…そろつた。フが揃った！  
麴町 揃えるな！ なにしとんじゃオマエは！  
椎奈 ああん、どうしよう、玉がたくさん出て来ちゃった！  
麴町 なんでやあつ！ コラ、おまえら。  
椎奈 すごーい。こんなに出ちゃった。(ドル箱を抱えている)  
明美 開いたわよ。まー、洒落てるわね最近のセキュリティシステムは。  
麴町 洒落てるで済ませるなよ！

部屋に入っていく四人の前に、いきなり会長そっくりの3号が飛び出す。

3号 いらっしやいませ。  
麴町 わあっとつとつとつとお！

明美 ますい…。

3号 いらつしゃいませ。

麴町 こ、こんばんは。

3号 主人はただいま外出しております。ご用のおもむきは、この人間型コンピュータ3号が、しかと承ります。ピー。

発信音とともに動きが止まる。

麴町 …なんだこいつは。

明美 3号って言ってるわよ。

田端 留守番ロボットですかね。

明美 そうよ、しゃべんなさいしゃべんなさい。

椎奈 あ、あたし？

明美 留守電とおんなじよ、なんかしゃべんなさい。

椎奈 (進み出て) あ、あの、会長？ あたし、椎奈でえーす。もう、こんな時間まで夜遊びしてえ。明日起きられなくても知らないから。椎奈は、もう、おねむだから、寝まあーす。バイ。(戻ってくる)

一同 …。(観念する)

3号 ピーッ。ありがとうございます。

3号、退場。

麴町 なんだよ。

明美 ちよろいじゃない…。

3号、戻ってくる。

3号 なーんてうまくいくかあつ！ きさまらご主人様の留守に何の用だつ！  
一同 わあつ。

暴れまくる3号。

逃げまどう四人。

麴町 椎奈ちゃん、それ！ 玉！

椎奈 ええい！

椎奈、まだ持ってたドル箱一杯の出玉を床に撒く。  
足をとられて仰向けに転ぶ3号。  
その隙に物陰に飛び込んで隠れる四人。

3号、ようやく立ち上がって、あたりを見回し、動くものを求めて去っていく。

物陰から出てくる四人。

最後の扉の前に進む。

明美、慎重に開錠する。

金庫発見。

明美 それよ。



麴町 すごい金庫だなあ。開くのかこれ。  
 明美 バカね、いくらあたしでもこんなの無理よ。学生さん、あれ持ってきた？  
 田端 ハイ。  
 明美 じゃ、お願いね。

学生、なにやら粘土状のものを金庫に貼りつけている。

麴町 なんだよ、それ。

田端 大学の実験室行って持ってきたんです。プラスチック爆弾。

麴町 プラ…おい、なんでそんなもんが大学にあんだ！ 危ないだろそんなもの！  
 明美 そりゃ危ないわよ、爆弾よ。

明美、信管をセットし、導火線を伸ばす。

明美 ハイハイハイハイ…

麴町 オイオイオイオイ…マジかよ。

点火する明美。

床に伏せる四人。

沈黙。

麴町 (何も起こらないので顔を上げ) いい加減にしろよ！

明美 おかしいわね…

立ち上がり金庫に近づきかけた途端、爆音。  
 吹っ飛ぶ四人。

麴町 (咳き込みつつ) 冗談じゃないよ…

明美、咳き込みつつ麴町に、行け、の合図。

麴町、恐る恐る金庫に近づき、扉に手をかける。

金庫は開き、麴町は中からチップを取り出す。

麴町 …これか…

麴町、学生にチップを渡す。

それは、髪飾りのような形をした金色の物体である。

明美 (ニンマリ笑って)…引き上げるわよ。

椎奈が置き手紙を置き、四人、退場していく。

会長、登場。

会長 3号！ 3号はどうした！…むっ。

破壊された金庫に気づき駆け寄る会長。

チップがない。

置き手紙を取り上げる。

会長 『西武グループ会長どの。チップはいただきます。返して欲しくばひなげし湯の土地の権利書との交換を希望します。連絡ごつ。泥棒倶楽部…』

会長の手の中で、手紙が握りつぶされる。

## SEQ20 幕間 〔中原と高濱、村木と北条〕

会長、横に動いてスポットに入ると、後ろから明美がやってくる。それはすでに中原と高濱である。

高濱 中原。おまえ今度の芝居終わったら、わかってんだろつな。

中原 ああ、おれ鬼怒川あたりがいいな。

高濱 なんだそりゃ。なんの話してんだおまえ。

中原 あれ、みんなで温泉行こうって言ってたじゃん。

高濱 とぼけやがって……。てめえ、今度こそ台本に専念しなかつたらおれはもう面倒見切れんぞ。

中原 わかってるって。今度で最後にするさ。おれも命は惜しいもんね。

高濱 どうだか……。ああ、それとなあ、タケのこと、おまえそろそろ考えてやれや。あいつ、ずっと役者やりたがってたんだし。

中原 ああ。そうだな。……………高濱。

高濱 ん。

中原 ……サンキューな。

高濱 ……。

後方のスポット。  
中には全身包帯で次のシーンの準備OKな主人と、麹町が浮かぶ。  
それは北条と村木である。

北条 村木くん。

村木 はい。

北条 村木くんも長いねえ、この劇団。

村木 はい。

北条 ここにいるとね、外でハンカチ握りしめて営業まわりしてる自分が、夢みたく思えてくるよ……。なんだかここだけ別な時間が流れてるみたいに思えるよ。

村木 そうですね。

北条 いつまで続くのかねえ。…続くといいねえ。

村木 はい。

北条 村木くん、五千円、いつでもいいからね。

北条、退場。

村木 ……はい。

村木を残して、暗転。

## SEQ21 金の髪飾り

会長宅。

中央に立ち尽くす1号。

後方に会長。

2号、田端を伴って登場。

2号 会長、お連れしました。

会長 ご苦労。…泥棒倶楽部というのは君か。

田端 はい。

会長 チップは持ってきたかね。

田端 ここにあります。

会長 仮にも西武グループの総帥であるわたしの自宅に忍び込んで盗み出すとは見事な腕だ。しかもズバリと急所を衝いている。なかなかどうして、たいしたもんだよ。…見たまえ、1号はすでに死にかけている。あと五分ですべての機能は停止し、すべての記憶は失われ、ただのもの言わぬ人形と化す。わたしにはそのチップが必要なんだ。…権利書はここだ。チップを渡したまえ。

田端 先に権利書を渡して下さい。中身を確かめたらチップは渡しますから。

会長 いいとも。さあ、これだ。確かめたまえ。

会長、2号に権利書を渡す。

2号、権利書を田端に。

田端、中身を確かめる。

会長 ……いいかね。よければチップを。1号の機能停止時刻まであと四分だ。

2号 さあ。

田端、2号にチップを手渡す。

2号、チップを会長のもとに。

会長 ……確かに。取り引きは完了だ。それともう一つ用事がある。2号。

2号 ……。

2号が腰から銃を抜き、銃口がまっすぐに田端を捉える。

圧搾空気が破裂するようなくもった音。

田端はがくりと膝をつく。

田端 う…！

会長 心配はいらないよ。ただの麻酔銃だ。小一時間もすればもとに戻る。われわれは

企業人であって悪党じゃない。

田端 ひ、きょう、だぞ…！

会長 その通りだ。ありがとう。

会長、チップを手に、1号のもとへ。

会長 ……長かったな。1号、これでおまえを生き続けさせることができる。これで、横

浜に…帰れる。

1号の傍らに立つ。

会長 高田馬場からいったん高田寺側に逃げ、そして南に下る。下北沢、自由が丘、田園調布をかすめて一気に鶴見、生麦まで南下する。そして海へ…。母さんのいた、あの海へ…。

会長、ゆっくりと、1号の頭にチップを近づけていく。  
 圧搾空気の音が響く。

会長 …！

会長、チップを取り落とし、膝をつく。  
 真後ろに、銃口を向けた2号が立っている。

会長 …に…2号…きさま…

2号 会長。甘いですよ。

2号、倒れる会長の傍らからチップを拾い上げ、入り口の方へ。  
 そこにスーツ姿の人影が現れる。

会長 き…さま…社長秘書の…！

秘書 そろそろ西武グループも主流に戻る時期だとは思いませんか。あなたはなかなかよくやっているが、しよせんは繋ぎ人事だということを弁<sup>わきま</sup>えていただかないと。

会長 2号、きさま、寝返ったか…ッ！

2号 はい。

会長 機械のくせに洒落たことしやがって…

2号 会長のお褒めにあずかり光栄の至りです。

会長 く…そ、貴様に…貴様なんか…！

秘書 あと二分で、あなたの野望にピリオドが打たれる瞬間が来ます。見るに忍びないでしょう、わたしだって鬼じゃない。…別室にお連れしなさい。

2号 は。

2号、会長を抱えて退場。

秘書、タバコを取りだし、ふと床の上で苦しむ田端を見る。

秘書 ああ、喫つてもかまいませんか？

田端 チップを…チップを渡せ…！

秘書 おやおや、まだそんな元気があるんだね。たいしたもんだ。

田端、必死で体を起こそうとしている。  
 2号が戻ってくる。

2号 あと一分三十秒です。

秘書 君もここで見てなさい。身の程知らずな夢がどんな結末を迎えるかを。

田端 ち、くしょう、…ちくしょうっ！

秘書、ライターを取りだして、タバコに火をつけようとすが

秘書 …と、会長室は禁煙だったかな。やれやれ、わたしもこれを機会にひとつ、禁<sup>や</sup>煙<sup>め</sup>てみますか。

2号 あと一分。

その時、3号の声が聞こえる。

3号 ご主人様！

会長型留守番ロボット3号が、飛び込んでくる。

2号 貴様、3号！

3号 ご主人様をどうした！ きさま、ゆるさん！

2号と3号の死闘が始まる。

秘書の回りにいつの間にか衝立が立つ。

秘書 な、なんです、これは…

衝立が倒れる。

わらわらと麴町、椎奈、明美、包帯男（主人）が現れ、秘書に飛びかかる。

秘書 わあっ。

揉み合う五人。

チップの奪い合いの末、それは床に落ちる。

田端の目の前だ。

田端、必死で手を伸ばしてそれをすくい上げる。

麴町 行けっ、学生！

田端 からだが…動かないんですよ…！

麴町 バツカ野郎！ 男だろ！ いいから気合いでなんとかしろ！

明美 あんた決めるときにキツチり決めなさいよね！

3号 あと五秒だぞ！

麴町 行けえッ！

全体にストップモーションがかかる。

田端だけが、ゆっくりと1号に近寄っていく。

刻む秒針の音だけが響く。

田端の手にするチップが1号の髪に届くかに見えたその刹那、五秒目の針の音が響く。

ゆっくりと崩れ落ちてゆく1号。

静寂。

1号と田端を残し、全ての人々が退場。  
田端、1号を抱き起こし、その髪にチップを挿す。  
なにも起こらない。  
なにも聞こえない。

田端 … ナナセ…

田端の渾身の叫びが響く。  
周囲の壁が崩れ落ちる。

動かない1号を抱いたまま、肩をふるわせる田端。  
かすかな声が聞こえる。

1号 …… たし…… は……

田端、ビクツとして1号を見る。  
1号の頭がかすかに動く。

1号 ……は ……七世代 ……令を ……どう…

田端がぼう然と見守るなか、ゆっくりと立ち上がる1号。

田端 ナナセツ！

1号 ……しは ……七世代コンピュータ ……ご命令を ……どうぞ…

田端 ナナセ、ぼくだ！ こっちを見てくれ！

1号 わたしは、第七世代コンピュータ1号、ご命令をどうぞ…

田端 ナナセ！ 覚えてないのか！ 忘れちゃったのか？

1号 わたしは、第七世代コンピュータ1号、ご命令をどうぞ…。

田端 こっち見ろよ！ ……なんで ……なんで見ないんだよ！

1号 ……高田馬場から、いったん高田寺側に逃げ、そして南に下る。下北沢、自由が丘、田園調布をかすめて一気に鶴見、生麦まで南下する。海と出会う。そこから海沿いに異国情緒漂うエキゾチックな駅を配し、潮風とともに横浜に雪崩れ込む。 ……それがわたしの、横馬場線…。

田端 ……ナナセ…

博士、登場。

博士 本来なら間に合ってはいなかった。チップの設計上の誤差か、それとももっと他の、なにかの理由があったのか。この子の一部だけがメモリの上にとどまって生き延びた。君が助けたんだ。

田端 ……

博士 今までの記憶も学習機能も消し飛んでいるだろう。おそらくこのままずっと変わることはない。なにかを学んだり、思い出したりはできない。それでも…これだけは、はっきりしている。君が、彼女を助けたんだよ。

博士、1号を連れて退場。

権利書を持った椎奈、登場。

椎奈 ……帰ろう、先生。ひなげし湯に帰ろう。みんな待ってるから。…待ってるから。

暗転。

## SEQ22 解散する

取り壊されているひなげし湯。  
明美、椎奈、田端がいる。

椎奈 先生、長い間お世話になりました。

田端 椎奈ちゃんも元気で。

椎奈 ハイ。

主人、登場。

明美 あらご主人さん、すっかり元氣になられて。おめでと〜ございます。

主人 長い間のご利用、ありがと〜ございました。

明美 あらあ、いいんですよ。あたしなんか目の保養に来てただけなんだから。…でもねえ、ちよっぴり寂しくなるわね。ここなくなっちゃうと。

椎奈 あの、いろいろお世話になりました。明美さんのことも忘れません。

明美 忘れていいわよ、あたしのことなんか。…学生さんともお別れね。

田端 お元気で。

明美 まあアンタ卒業してさ、うんと出世したらクラブに来てあたしのこと指名してちよっぴりよ。

田端 はい、ぜひ。

明美 なんだって不法侵入および窃盗の共犯なんですからね、あたしたちはみんな。

バッグを持った麴町、登場。

麴町 ちよつと待ってよ、ここ閉めちゃうってホント？

明美 来たわよ、死活問題の人が。

麴町 あらからら壊してる。壊しちゃってる。なんでよなんですよ！ だってもう地上げは終わったんじゃないの？

明美 ジタバタすんじゃないわよ。ご主人さんにはご主人さんの考えがあんのよ。

主人 これも時の流れってやつですか。

麴町 なんだよ時のナガレって。

明美 あんた完璧に取り残されてるからわかんないのよ。いいかげん風呂付きに引っ越しなさいな。

椎奈 お父さん、そろそろ汽車の時間。

主人 そうだね。じゃあ…

椎奈 先生。みなさん。どうもありがと〜。さよなら。

麴町 あ、椎奈ちゃん…。(フラフラと寄る)

明美 元気でね。(首根っ子をおさえてとめる)

主人、退場。

椎奈、振り返る。

椎奈 …先生。なんか…あたし、とっても楽しかった。このまま田舎帰るけど…きつと会いに来てね…あたし、待ってるから…

椎奈、帽子を脱いで、笑顔を見せる。  
それは恵の笑顔だ。

恵 戻ってきてね…お兄ちゃん…。

恵、退場。

明美 …さて、と。あたしも行くわ。あなたたちとももう会うこともないだろうけれど、ま、元気でやんなさいよ。

鞠町 待てよ！

明美 ここは待てないわ。もつラストだもの。あいつならここで余計な捨てセリフは言わせない…。あいつのホンでここまでやってきたのよ。あいつが生きてりゃ…

明美はかるうじて明美であり続けている。  
なにかをぐっと呑み込んで、明美は背を向ける。

明美 ここであたしにセリフはないわ。…じゃあね。

鞠町 高濱さん！（鞠町はすでに村木に戻りかけて叫ぶ）

明美 …。

振り返って村木を見たのは高濱である。

高濱 あんたはいつも、一言多いのよ…。

高濱、退場。

それとともに、舞台空間は芝居小屋へと戻っていく。

村木 …潮時だな。おれも行くわ。

悟 …。

村木 おまえどうする。

悟 もつ少しここにいます。

村木 そうか。…置きみやげだ。

村木、バッグからラジカセを取り出して置く。

村木 短いとき合いだったな。またどこかで会おう。…元気で。

悟 …お元気で。

村木、退場。

スピーカーから流れる曲が、ラジカセのスピーカーに収束する。  
悟、ラジカセを見る。

一瞬、悟とラジカセだけがスポットに浮かび上がる。

再び明るくなると、佐藤と竹村が立っている。

佐藤 まだいたのか、悟。

悟 佐藤さん…。タケさん。

佐藤 中原の葬式、おまえ来なかったら。

悟 …。

佐藤 しょうがねえなあ。高濱も来なかったけど…。そういつとこちゃんとしろよ。



悟 はい。  
 佐藤 ホラ、最後まで、ノリのいい曲で締めてみせる。  
 悟 ……ハイ。

悟、ラジカセに歩み寄り、曲を変える。  
 中島みゆき『ホームにて』。

佐藤 ……相変わらずだな、おまえは。

佐藤、竹村、悟、一気に最後の幕を落とす。  
 劇場の汚れた壁が現れる。

佐藤 (素舞台に戻った小屋をちよつと見回して)…じゃあな。悟、タケ。…あばよ。

佐藤、退場。

竹村 悟くん。

悟 元気で。

竹村 また、どつかで。

悟 また。

竹村、退場。

悟、しばらく曲を聴いているが、やがて出口に向かって歩き出す。  
 その時、ラジカセの曲が、再び劇場のスピーカーから流れ始める。

悟 ……。

照明の変化だけが、無人になろうとしている空間を刻々と染め変え続けている。  
 曲に混じって、セリフの切れ端が聞こえてくる。

悟 ……。

悟はラジカセをそのままに、ゆっくりと劇場を出ていく。

声(中原) ……SMはないだろSMは。

声(麴町) おいおい、風呂ンなかで勉強すんなよあんだ。

声(恵) あたし高校生です。お兄ちゃんも高野です。高野悟です。

声(中原) あれ誰だ？

声(竹村) ……デビル。

声(明美) ……ホントよ、知らないの西武警察。

声(竹村) ……ぴあにもアポにも出てる…。

声(2号) 会長、甘いですよ。

声(田端) 電車に乗ったら。

声(1号) 電車に乗ったら。

声(田端・1号) 海だ！

声(2号) パシヤ、ういーん。

声(加代) あ、高濱さんだ、色魔の高濱さんだ。

声(田端) コンピュータだろつがカンピョー巻だろつが、好きなものは好きなんだ！

声(高濱) ……中原、この芝居終わったら、わかってんだろつな。

声（会長） …… 高田馬場からいったん高田寺側に逃げ、そして南に下る…。

声（加代） 急がないなんて言って、そつやってせかしてるじゃない。

声（悟） ……ごめん。

声（麴町） ……泥棒はよそつよ、泥棒は…。

……

声は音楽のなかに消えていく。

最後の照明も消え、空間は暗闇に閉ざされていく。

舞台には誰もいない。

幕。